

山 嶽 寮

甲南山岳会通信 第73号

2018年10月

甲南山岳部・甲南山岳会

山 行	ニュージーランドの山旅 ルートバーントラック	山本恵昭	2
紀 行	ウズベキスタンの片田舎 スラタ山脈北麓の村々を訪ねて	越田和男	9
論 考	東ヨーロッパ再訪 (2018 夏)	南里章二	16
随 想	思い出 1963 年の山日記	飯田 進 柏 敏明	21 24
追 悼	福井グリーンさんのこと	越田和男	30
会員短信	(構成) 井上知三 総会・慰霊祭への出欠はがきから		34
報 告	秋の集会 定時総会 慰 霊 祭	井上知三 井上知三 松下哲夫	43 44 46
ホームページから	(構成) 大森雅宏 山行と集い その他もまとめて一挙掲載 塩崎編集長の海外写真日記		47 62
編集後記	塩崎将美		72

山 行

ニュージーランドの山旅 2018年3月23日～31日 ルートバートラック

山本恵昭 (昭56理)

以前から行ってみたいと思っていたニュージーランドのルートバートラック。ニュージーランドの9つあるグレートウォークの1つで、有名なミルフォードトラックと並んで人気が高い。ガイドツアーでなく個人で安く行こうと思うと、Department of Conservation (保全省:略してDOC)のホームページでキャンプサイトの予約を取る必要がある。しかし、世界中から人が集まる人気ルートのため、いつ見ても一杯でなかなか空気がない。

3月末に休みが取れることになったのが、3月20日。21日にDOCのホームページを開いてみると、なんとキャンプサイトに1張り分だけキャンセルが出ている。「うーん」としばらく悩んだ後、ポチッとクリックして予約してしまった。(NZ\$20×2名×2泊)そこから、怒涛の如く準備が始まる。妻も行くというので二人分の山道具をザックに詰め込む。飛行機の手配をしようといういろいろな予約検索サイトを調べるが、いずれもすでに時間切れ。ダメもとで、開いたニュージーランド航空の予約サイトから、23日夜関空発、オークランド経由クイーンズタウン行きの航空券を取ることができた。(約¥20万×2名)次は宿だ。生憎、現地は観光シーズンということで、安い宿はもう埋まっている。とりあえず、到着日の宿だけは確保したいので、ちょっとお高い目のリゾートホテルに予約。あとは出発までの二日間と現地に行ってから何とかしよう。

・アウトドア天国 クイーンズタウンへ

3月23日 仕事を終えて、大急ぎで関空へ行き21:00発オークランド行きの便に搭乗する。

24日11:40オークランド空港に到着し、預けたザックを受け取って入国手続きの大行列に並ぶ。検疫で、登山用具と食料を申告し、確認を受ける。また大行列を経て、係員からザックの中身を出すように言われ、山用具をカウンターに並べる。二人の係員が、登山靴、テント、食料を一つ一つ確認していく。外来生物の侵入阻止のため、なかなか厳しい。一人の係員から靴底についていた土にチェックが入るが、もう一人からなんとかOKをもらう。3時間ほど乗継時間を取っていたが、クイーンズタウン行きの便にぎりぎりとなってしまう。大急ぎで荷物を詰め直し、バスに乗って移動。国内線のカウンターへ駆け寄ると、結局到着遅れで待たされる。

クイーンズタウン空港に16:45到着。バスで市街中心部へ移動し、15分ほど歩いて予約したペッツバーズビーコンホテルに到着。レイクビューのおしゃれなリゾートホテルで、なんとなく落ち着かない。荷物を置いて、街中を散策。コンパクトであるが、夏はボート、冬はスキーで賑わうリゾートタウンである。湖岸には、ジェットボートやパラセーリングなどの乗り場があり、街角にはツアーカウンターやレストランが並んでいる。

居酒屋っぽいレストランへ入り、ラムチョップと牡蠣、ビールを注文する。美味しいけれど結構高つくので、腹6分目ぐらいで我慢。スーパーで安いラムシャンクとワインを買い、ホテルの部屋で飲

み直す。やはり、我々夫婦にリゾートは似合わない。

ニュージーランドと言えばラム(子羊)肉である。高級なのがラムチョップ(骨付きロース肉)で、ナイフとフォークが似合う上品なお味である。ラムレッグ(骨付きモモ肉)は、お手頃価格で食べ応えがある。今回、特に気に入ったのがラムシャンク(骨付き脛肉)。とにかく安くて旨い。骨を握ってガブリとかじりつくと肉汁が口に広がり、ちょっとスジっぽい肉は噛めば噛むほど旨みが沁みだしてくる。ローストしたラムシャンクを片手にニュージーランド産ピノワールワインをグビリと、これ最高である。

25日 朝ホテルをチェックアウトして、ベースという安いバックパッカーズに移動し荷物を預ける。DOCの事務所で予約券を見せてキャンプチケットを受け取り、地図を買う。他のトレールの無料パンフレットをもらい、展示物を見てまわる。外来動物駆除の取り組みについての説明があったり、絶滅危惧種で長年確認されていない鳥の情報を懸賞金がかかっていたりして、面白い。スポーツ用品店でコンロ用のガスカートリッジと虫除けローションを購入する。水辺には、サンドフライと呼ぶ小さなブユが沢山いて、刺されるとかなり痒いらしい。日本製の虫除けではディート濃度が低くて効かないとのこと。日本人スタッフのいるQブックという旅行社へ行き、送迎車の予約をする。(NZ\$123×2名)これで山に入る準備は一段落。

天気が良いので、ハムサンドとジュースを買って、ゴンドラで展望台へ。ゴンドラには、スキーならぬマウンテンバイクを外にひっかけているものがある。ゴンドラで上がって、自転車で山道を駆け降りるのが流行っているようだ。ベンチで昼食を食べていると、湖の絶景をバックにパラグライダーが飛

んでいく。パラグライダーのスタート地点まで、針葉樹の森を20分ほど散歩する。結構メタボなおジサンオバサンが、ガイドとダンデムで飛んでいく。ガイドも大変だ。

ゴンドラを降りて、ゴンドラ乗り場近くのキーウィバードパークへ行ってみる。一度は見てみたいキーウィ。でも夜行性なので、野生では難しい。薄暗い小屋の中で飼育されているキーウィがエサを食べているのを見ることができた。思っていたより大きい。剥製や写真で説明を受けるが、体に対して卵がバカでかいことにびっくり。いたずらオオムのケアをはじめ、いろいろなニュージーランド固有の鳥が興味深い。

レストランでの夕食は予算的に諦め、スーパーで山用食材と夕食用にラム肉料理とサラダ、ワインを購入する。安宿のベースにチェックインし、部屋に銀マットを敷いて夕食。キッチンスペースがあり、旅行者の余った食料がフリーフードとして置いてある。有難く、カプチーノを頂く。

今日はとても良い天気であったが、入山する明日から雨の天気予報。特にメインの明後日は警報レベルの赤マークで嵐の予報。日頃の行いは良いはずなんだけど。

・トレッキング ルートバートラック

26日 山で使わない荷物は宿に預け、朝暗いうちから待ち合わせの場所へ。6:50 ちょっと遅れて、おじさんが迎えに来た。少し離れたところに止めてあったマイクロバスに乗る。テアナウという町でいろいろなツアー客が合流し、大型バスに乗り換える。

登山口のディバイドへ到着する頃には雨が降り出す。大きなシェルター内は出発準備をする人で

大混雑。トイレも着替えスペースもある。ガイドツアーの団体が出発してちょっと静かになったところで、雨具を着て傘をさし 11:20 出発。高低差のあまりない樹林帯の中の道をしばらく進むと、少し下ってホーデン湖小屋に 12:20 着。小屋内は雨宿りの人で一杯だったので倉庫の軒先を借りて昼食を食べる。再び高低差の少ない登山道を辿ると、14:10 アーランド滝に着く。下の方を迂回する道もあるが、滝のすぐ下の道に行く。雨で増水した滝の飛沫と吹き降ろしの風でずぶ濡れとなるが、落差 174m の滝の迫力を楽しむことができた。苔むした森をさらに進むと、マッケンジー湖の小屋へ着く 16:00。

最初、ガイドツアー用の豪華な小屋の方へ迷いこんでしまう。顧客リストを持ったお姉さんが満面の笑みで出迎えて名前を聞いてくるが、キャンプサイトの場所を訪ねると「なーんだ」という表情で道を教えてくれた。そこから戻って少し歩くと DOC の小屋、さらに 10 分ほど歩いてキャンプサイトに着く。屋根付きの炊事場と森の中に個別のキャンプサイト、そしてトイレが 2 つ。炊事場にいたニュージーランドやカナダの先着パーティがにこやかに迎えてくれる。森の中なので展望はないが、ちょっと歩いて湖畔まで行くと山々に囲まれた氷河湖が美しい。

相変わらず、雨は降ったりやんだり。DOC の小屋番のおじさんに相談に行くと、「明日の朝、道の状態を確認するので大丈夫」とのこと。片言の英会話の中でよくわからない部分があり、何度も聞き直すが、「アイ サーティ」を繰り返す。どう見ても、50～60 代のおじさんで 30 歳には見えない。テントに戻って反芻すると「エイト サーティ」、朝 8:30 出発ということだと納得。ここでは、アメリカ英語で

なく、イギリス英語なのか、オセアニア訛りなのか。「e」を「ア」と発音するようだ。町で買い物をしていて、よく聞き取れないことも多い。

27 日 大雨の中、荷物を炊事場に運んでテントを撤収し出発準備。小屋まで戻って、8:40 登山道を辿る。絶景のはずのマッケンジー湖がぼんやりと霞んで見え、対岸の山肌は幾筋もの滝となっている。道は川となり、途中の小川は増水して脛の深さでジャブジャブと渡渉して進む。道横の岩場からは雨水が全部滝となって滴り落ちる。標高を上げると、風も強まり、時々立ち止まって耐風姿勢。景色も見えず、ひたすら耐える歩行が続いていると、ハリスサドル(峠)に 12:00 到着。近くの岩山の山頂に登る道があるが、天気も悪いのでやめておく。立派なシェルターに入って、クッキーなどを頬張ると一段落。このころから少し視界も出てきて、雨も小降りになり、ハリス湖に着くころには、雨も上がる。岩山と氷河湖、流れ落ちる滝、草原。ニュージーランドの風景そのものである。こうでなくっちゃ。ここからは、ハリス湖から流れ落ちる小川を見ながら、草原中の道を下る。やがて、ルートバーン滝の下立派な小屋に着く 14:30。さらに整備された道を下っていくと、ルートバーンフラット小屋に 15:40 到着。小屋番から説明を受けた後、少し歩いてキャンプサイトへ。山々をバックに川沿いの平らな草原が広がり気持ちが良いが、虫が多いのが玉に瑕。そして、青空が見えていたと思ったら、忘れたころにまた雨が降る。

28 日 ゆっくりと朝食。迎えの車の時間に余裕があるので妻をテントに残し、1 時間程という約束で一人でルートバーンノースブランチという脇道コースに行ってみる。9:00 小屋の前の川を、靴を履いたままでいきなり膝の深さの渡渉。ふかふかの

湿原に残るかすかな踏み跡をたどり、何度か小川を渡渉して森の中を登っていくと、10:10 小さな湖が現れる。その奥はまた草原。ほとんど人が入らないようで、静寂の中に山々に囲まれた広い谷が奥へと続いていて、探検気分がそそられる。昔、日本アルプスもこのような静けさに包まれていたのでしょうか。妻との約束の時間を過ぎてしまったので、まだまだ奥に進みたい気持ちを振り切り、走ってキャンプサイトへ戻る 10:50。靴下を絞りボトボトの靴を干しながら、裸足で TENT を撤収しパッキング。ここからは、よく整備された広いハイキング道で日帰りハイカーも多い。シダやコケ、地衣類が豊かなのは、雨が多いためか。2時間ほどで、終点のルートバーンシェルターに 13:30 到着。

しばらく待っていると、14:00 時間通りに迎えるマイクロバスが来る。グレノキーという湖のほとりの町で休憩を入れて、クイーンズタウンに 15:45 到着。

安宿ベースに再びチェックインし、残りの日をどう過ごそうかと、Qブックに行って相談する。ミルフォードサウンドのフィヨルドツアーが有名で人気もあるが、お勧めはもっと大きくて人も少ないダウトフルサウンドとのこと。結構な値段がかかるが、予約をする。(NZ \$310×2名) その後は、また、スーパーでラム肉料理とワインを買い、宿の部屋で夕食。

・フィヨルド観光ツアー ダウトフルサウンド

29 日 7:15 発の大型バスでマウナポリという町へ行き、船に乗ってマウナポリ湖を横断。またバスに乗ってダウトフルサウンドのディーブコープという船着場へ 12:50。ここからまた船に乗り、フィヨル

ドの入口まで往復3時間のクルージング。氷河に削り取られた急峻な岩山に木々がこびりつくように生えている。グイーンズタウンでは晴れていたのに、海沿いのこの辺りは雲が立ち込め、時々雨。この年中降る雨で緑の絨毯ができていようだ。湾内は静かだが、外洋に面したところまで来ると波が荒い。昔の探検家は上陸地点を求め、急峻な岩山に囲まれ複雑に入り組んだフィヨルドの迷路に苦しんだのだろう。岩場にはオットセイの群れが日向ぼっこをしている。来た経路を逆にたどり、20:00 クイーンズタウンに戻った。恒例のスーパー惣菜とワインを買って、なじんできた安宿ベースで夕食。

・ハイキング クイーンズタウンヒル

30 日 帰国前日なので、あまり無理はせずグイーンズタウンヒルという町の裏山に3時間ほどのハイキング。幻想的なベニテングダケだらけの針葉樹林を抜けると、開けた山頂に着く。湖の屈曲地点にいたので展望が良い。空港へ向かう飛行機が目の前をゆっくりと下降していく。隣に見えるゴンドラの山からパラグライダーが次々と飛んでいく。たくさんの地元の人に出会うが、みんなそれぞれの服装、ペースでハイキングを楽しんでいる。

最終日の宿の予約が取れていなかった。早朝発の便なので、前夜から空港で仮眠でもいいかなと思っていたが、どうやら追い出されるらしい。慌てて Wi-Fi のつながるところで宿探し。観光シーズン真っ只中で高額な所しか空きがないが、運よくハカという安い B&B に予約ができた。チェックインし、シャワーを浴びて、翌日早朝のタクシー予約も終える。

最後の夜は「レストランでちょっと高級なワインで

も飲んで豪華に行こうか」と張り切って宿のお姉さんに相談すると、残念そうな表情で今日は酒類を販売しない祝日とのこと。「レストランでもスーパーでも、多分ワインは手に入らないわよ」と言われて、テンションがた落ち。結局、宿のキッチンダイニングで、スーパーで買ったラムレッグを食べて、酒なしで大人しく就寝。

・帰国

31日 6:00 予約したタクシーに乗って20分ほど、クイーンズランド空港へ。予定通りオークランド空港へ着くが、安いチケットのため、乗継時間が1時間ほどしかない。いつ来るかわからないバスを待たず、15分ほど小走りで国際線ターミナルへ移動する。何とか間に合って、成田空港へ。成田から羽田へバスで移動し、22:10 関空へ無事到着。

ニュージーランド航空では、エコノミーでもワインが飲み放題。映画を見ながら、何杯もお代わりをして時間を過ごす。成田到着近くになって、トイレ待ちをしていると、日本人CAがワインやシャンパ

ンをドボドボと捨てている。「もったいないねー」と声をかけると、「開けてしまったのは捨てないといけないルールなんです」と。思わず1本もらってラッパ飲みをしたくなるが、まだその気持ちを声に出すほどは酔っぱらっていなかった。

こんなに短時間で準備をして海外に行くのは初めてであったが、思い切って行ってみて良かった。日本でアウトドアスポーツというと、流行りものであったり、変に構えてみたり、異端であったりするが、ニュージーランドではアウトドアを楽しむ文化が成熟し、ふつうに日常の中に浸透しているようだ。アウトドア好きの人が多くて、楽しむための設備も整っている。また、その舞台である自然環境を守っていくことに、大きな価値を認めている。この国では、水の中から山の上、そして大空まで、豊かな自然を活かして、子供からお年寄りまで、それぞれが自分に合った方法で、思いっきり自然を楽しんでいる感じがした。構えず、無理をせず、自然に親しみ人生を豊かに過ごす姿勢を見習っていきたいと思った。



クイーンズタウンのゴンドラ山上展望台



苔むした森に行く



キーウィの拡大X線写真 卵が大きい



マッケンジー湖



ハリス峠のシェルターで休憩



ルートバーンフラットのキャンプ場



ハリス湖 雨も上がり、絶景が広がる。



ルートバーンノースブランチの風景



ルートバーン滝小屋付近から、ルートバーンフラット



宿の部屋でスーパー惣菜の夕食

原稿をお寄せください

皆様からのご寄稿をお待ちしています。

最近の山旅、学生時代のこと、行事に参加してなどジャンルを問いません。

最近は何も行っていないからムリ、とお思いの方。

甲南山岳会は若い時に一緒に山に登った仲間の仲良しクラブやと私は思ってます。

仲良しクラブの会報です。山以外の原稿大歓迎です。

皆様来年の山嶽寮の原稿お待ちしております。

山嶽寮編集長 塩崎将美

ウズベキスタンの片田舎

—ヌラタ山脈北麓の村々を訪ねて—

越田和男 (昭36理)

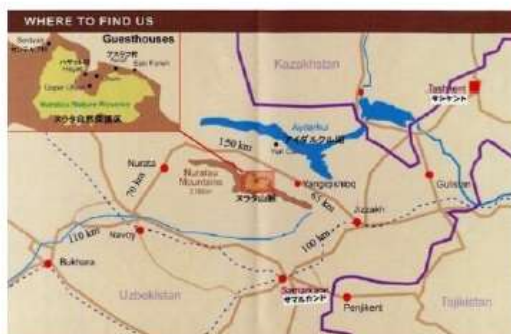
一寸古い話で恐縮だが、ウズベキスタンの野生のケシの群落を見ようとの誘いがあり、その花期に合わせて、2015 年5 月の初旬、タシケントの南西 300 km に位置するヌラタ山脈北麓の三つの山里を訪ねた。そもその発端は、今回のリーダー甲南 OB の米山悦朗さんと國見ゆみ子さん（日本山岳会、パミール中央アジア研究会）が、前年にウズベクを訪問した折に、現地ガイドから見せられた写真があまりにも魅力的だったことであり、提案された旅程が、観光客のあまり訪れることのない山村の民宿泊を含んでいたのも旅の動機づけとなった。

ゴールデンウィークの最中、5 月1 日成田発タシケント行きのウズベキスタン航空 HY528 便はガラ空き 30% 程度の搭乗率で（こんなので採算とれるのかと心配したが、10 月末にこの路線は運休となった）、左右の機窓からの山の眺めが楽しめた。

まずは右の窓からアルタイ山脈の東南端支脈の山々、次いでウルムチ手前の左窓では、ボグド・オーラ山塊（写真）、そして天山の高峰群が近づいてきた。



そのあたりで残念ながら、雲行き悪く、やがて雲海上の飛行となったが、まあ 70 点の満足度か。



タシケントに一泊した翌朝に始まった旅は、日本語を話すロシア人のガイド、セルゲイ・マトロソフ（35 歳）、とタジク人のドライバー、アジム（56 歳）、中型バス（トヨタ・ハイエース）にわれわれ客 4 人だからゆったりとしたもの。

タシケントからヌラタ山脈北麓方面へ直線では西南西方向 250 km 程だが、カザフスタンとの国境線が南に出っ張っており、まずはサマルカンドへ向かう幹線道路をいったん南下してグリスタン Gullistan を経由、ジザフ Jizzakh あたりで右折して、北西へ向かう。320 km 位の走行距離で、首都から遠くなると、中央分離帯付きの高速道路から一般道路となり、やがては1車線と2 車線の混じる田舎道となった。この道路はヤングキシラク Yangikishlak とヌラタ Nurata を結ぶ地方幹線道路で、ヌラタ山脈の北の山裾を走り、山を左に、広大な平原を右の車窓に進む。平原の 30 km 北側には東西に細長いアイダルクル湖 Aydarkul があ

る。

訪ねる三つの村、アスラフ Asraf、センチャブ Sentyab、ハヤット Hayat、はいずれも自然保護区ヌラタ山脈の北麓にあり、浅い明るい谷間に入り込んだ緑の中にオアシス的な佇まいで、住民はみんなタジク人と聞いた。各村に2〜3軒の民宿がある。泊まった宿はどれも親、子、孫の三世代が住み、孫たちが甲斐甲斐しく働く様がほほえましかった。世代間の役割分担が自然な形でなされているように見受けられた。

アスラフ村へ、そして平原へポピー探しに

ジザフを過ぎた辺りでは左車窓に雪の山脈が望めたが、目指す 2000m級のヌラタ山脈に近づくと、残念ながら山々に残雪はほとんどない。山が間近に迫った頃、地方幹線路を左折して、この日の宿のある山間の村 アスラフへは未舗装の道を数キロ南に入る。標高 700m 程度の明るい谷間の果樹園の多い集落の奥まったところに宿はあった。広い敷地内に泉から引かれた澄んだ小川が流れ、左岸に母屋、右岸に新しく建てた客室棟とシャワー、トイレの別棟がある。緑陰の敷地内にいくつかの縁台があり、小川を跨いだ涼しげなのもあった。縁台は食事処でもあり、寝場所にもなるようだった。欧米系の先客が2組、屋外のテーブルで食事を楽しんでいた。

タンケントを朝 8 時半に出発して、宿には午後早くに着いた。宿はどこでも昼、夜、朝の 3 食付きが標準らしく、屋外のテーブルで早速昼食。野菜サラダ、羊肉入りスープ、パン、デザート類が供された。

さて、肝心のポピーだが、この辺りではちらほら見かける程度。今年は 4 月に雨が少なくポピーの

開花状況が悪いらしい。セルゲイが一寸困った顔で、宿の主人や運転手のアジムらと相談した。結果、午後アイダルクル湖方面にポピーハンティングに出かける提案があった。片道 30 kmほど、往復 4 時間程度の土道のドライブで、宿の若いのが案内につき、ガソリン代と合わせて一人 25 米ドルほしいという。ポピー目的の旅だから、致し方なし。食後早々の出発とあいなった。



ヌラタ山脈とアイダルクル湖の間の平原には農地や牧地もあるにはあるが、耕作地は極めて少なく、点在する一軒家の民家で情報を入れながらのポピー探しには、少々不安を覚えたが、夕刻も迫るころ漸くいくつかの、そこそこの群落に行き当たった。セルゲイは、去年はこんなものじゃなかったと、もっと宿に近いところで写したというスマホの証拠写真を見せてくれたりするが、そんなものは寧

ろ見ない方が良い。目の前の群落は、遙々やって来た甲斐もあったと思わずにはいられない程度のものであった。カメラマン米山さんも一応満足した様子。



アスラフ村の民宿の縁台



縁台で寝ていた子供たち

壮大な原野の日没を見て帰路に就く。夕日に映える赤いケンという芸術写真は米山さんの世界だ。とっぷり日も暮れて宿に着き、夕食も星空のもと野外テーブルで(以後民宿宿泊中食事はすべて戸外)、ビーフン・サラダ、キャベツ入り肉じゃが、パンにデザート各種。冷えたビールがうれしい。大瓶一本 7,000 スム、330 円見当か。味よし。

我々夫婦に割り当てられた寝場所は母屋の一室。絨毯の上にマットと布団が用意されており快適。

問題はトイレで、小川の対岸にあるので、ヘッドランプ頼りに石段を下りて細い木橋を渡って行くのには閉口した。家族の子供と祖父が外の縁台に寝ることになった模様で、ガイドとドライバーも同様。どうやらオーバースタッキングのようだったが、雨も夜露も心配のない土地柄ならではのことか。資料によれば、宿の宿泊定員は 16 名となっていた。グループでの雑魚寝を想定しているのだろう。蚊や昆虫も居なかったが、夜中暗がりのなか宿の飼い猫が当然の如く寝床を求めてやって来て驚かされた。

朝食はピロシキ、卵焼き、ニンジンの甘煮。日曜らしく中学生くらいの少年少女のグループが、バーベキューの道具や食材を持って楽し気に出かけて行った。丘の上にあるサッカー場へ向かうという。

センチャブ村へ

午前中に、一旦谷を下り別の谷に入って数キロ、やや規模の大きいセンチャブ村の民宿へ。緑豊かな村のなかを澄んだ小川が流れており、民宿は右岸の河岸段丘にあった。さっそく村の散策に出かけたが、どういわけか左岸の傾斜面に廃屋寸前とは言えまだ住まわれている比較的密集した泥壁の旧部落があり、このほうは緑が少ない。右岸にはやや豊かな佇まいの民家が緑の中に距離を置いて点在しており、なかなか絵になる景観が楽しめた。宿の主人に教えられた旧部落のよろず屋でビールを求めたが、びっくりしたことに、1.5 リットルの PET ボトル入りで、一本 5,000 スム(250 円くらい)。昼食まで時間があつたので宿の冷蔵庫で冷やしてくれた。味に問題なし。ちなみに宿には大きなソーラー・パネルがあり自家発電だった。昼食

には何種類かの野菜サラダ、羊肉のシチューなど。
宿のおかみさんが野外の大きな窯で焼いた焼き
たてのパンがことのほか美味かった。



午後はセンチャブ川の上流を探索した。初めの
数キロは悪路ながら細い車道があり、別雇の四駆
の軽自動車を利用し、さらに上流へは徒歩で行く。
上流にもなお人の住む民家と廃屋が点在し、住民
の往来がある。足はもっぱらラバのようだった。元
気な米山さんと國見さんはセルゲイの案内で、上
流の景勝地カルドヴァン溪谷を目指したが、沢を
間違えたとかで時間切れで帰って来た。私たちは
清らかな流れの畔の木陰に腰を下ろし、ラバに乗
って羊を追う村人を眺めたりしてゆったりと時を過
ごした。



宿は客室四つの長屋風のものが新築されてお
り、片方の端にトイレ、もう片方にシャワー、寝具は
ベッドである。水洗風のトイレは水が出ないので、
バケツに水を汲んで持って行き用を足す。シャワ
ーは直ぐ水になるので素早く使う。野外の夕食は
快適で例の PET ボトルのビールと持参のウイスキ
ーで、セルゲイも参加して長々と宴。メインにでっ
かい“モモ”が出た。土地の人は液状ヨーグルト
に漬けて食べる。テーブルに隙間がないくらい料
理や菓子類を並べるのがこちらのオモテナシだそ
うで、残しても失礼にならないらしい。朝食も盛り
沢山、クルミ、サクランボのジャム、ハッシュドポテ

ト、パンケーキ、などなど。

アイダルクル湖

次の民宿のあるハヤット村に行く前に、北のアイダルクル湖の南岸を散策。東西 250 km、3000 km²の汽水湖で、琵琶湖の 4.5 倍の面積がある。ソ連時代、大河シルダリヤの灌漑計画で造ったダムが増水時に放流が間に合わず、溢れ出た水が溜まったものという。アラル海がどんどん小さくなり、予期せぬところに新しく湖が出現したという皮肉。役立たずの失敗作というべきか。

サンチャブ村から一旦山を下り、平原の地道を小一時間北上して湖の南岸にいたる。夏には湖水浴も出来るというが、見た目の湖水はあまり綺麗とはいえない。湖岸にかつては立派なホテルだった幽霊屋敷のような大きな廃屋があった。ソ連時代の兵士の保養施設か。離れの客室だろういくつかの建屋を従えたゴースト・タウンはただただうら寂しかった。湖岸に他に集落らしきものは見えないが、一部には観光施設があり、ユルタでの宿泊などが出来るらしい。あまり長居せず、早々に引き上げた。甲羅の長辺 30cm くらいの亀を平原のあちこちで見かけた。



草原の亀

ハヤット村

前の 2 泊と同様に、地方幹線から南へ少し大きめの谷を 10 km ばかり詰めたオアシスの様な集落ハヤット村の奥に宿があった。標高約 910m。やや裕福な感じで、母屋と別棟があり、日頃は家人が使っている雰囲気のある別棟の幾つかの部屋が客用になっている。ここも定員 16 名となっていたが、満室の時は相当窮屈に詰め込むか、家人が野外の縁台に寝ることになるらしい。セルゲイとアジムは外の縁台を選んだ。昼食には、何種類もの野菜のサラダと野菜入りのマントウが出た。子供たちが良く働き、小さい子供も働く親の邪魔をせずひとり遊びしていた。



アイダルクル湖



村のよろず屋



民宿の祖母と孫

午後は宿の子供の案内で裏山へハイキングに出かけた。野生の羊の希種セヴェルトオッフ・アガリ *Severtzov's Argali* の保護柵が谷から尾根筋にかけてあり、ヌラタ自然保護区が管理している。柵内には入れず、写真に鉄条網が写ってしまうのが不満だったが、幸運にも7〜8頭の群れが崖の上を走り、真近の谷に下りてまた駆け上がったりのが見られた。

宿の親戚筋のちょっと胡散臭げな生物学者 *Biologist* と自称する若者の云うには、この羊もマルコポーロ・シープの亜種のひとつとのこと(帰国後パ中研の某氏にそれは違うと一蹴されたが)。夕食前のビールの宴に入り込んで来たこの *Biologist* から提案あり、彼の口利きで普段入れない保護区に1人10ドルで案内するという。米山氏と國見さんが話に乗れ、翌早朝に柵内に入りかなり近く見られたとのこと。管理を請け負っている村人にいくらかのワイロを払ったらしい。

夕刻に宿の人に聞いて、やっとヌラタ山脈の最高峰ハヤトボシ 2169 mが同定できた。頂上直下に猫の額ほどの残雪があるが、あまり登行意欲をそそるような山容ではなかった。夕食には大量

の野菜と待望の美味いブロッコリーが出て満足して床に就いた。山里最後の夜は、訳の分からぬ獣の鳴き声や、犬の遠吠え、明け方は鶏と野鳥の鳴き声でにぎやかだった。米山さんと私はこの夜ダニに咬まれて難儀したが、女性二人は虫にも食われなかった。



ハヤット村のハイキング



民宿の子供たち



セヴェルトゾフ・アルガリ

(マルコポーロ・シープの亜種?)

旅の終わりに

これでわれわれの山村訪問の予定を終え、大都会サマルカンドへ移動した。三つの村それぞれに一泊、計三泊という短い滞在では、その生活ぶりのほんの一部を垣間見たに過ぎないが、穏やかな山間部に穏やかに住む半農半牧畜の人達を見た。遅まきながらの車社会の到来、ソーラー・パネル、携帯・スマホの普及がもたらすだろう変化に想いを馳せた。

サマルカンド、シャフリサブスの観光を済ませ、タシケントから成田に飛ぶ日の半日、セルゲイが、是非雪山を見たいというわれわれの希望に応じて、自分の車を出して、タシケントの北東小一時間の距離にある西天山の山麓を案内してくれた。西天山の最西端の大チムガン峰 KT Chimgan 3309mはこの時期残雪たっぷりで、その西面を望める2000 m程の前山にリフトがある。首都に住む都会人が冬のスキー、夏の登山を楽しむという。リフトの上から眺めた伯耆大山を思わせる山容が印象的で、帰りがけの駄賃となった。

【旅の記録】

期間 2015 年 5 月 1 日～ 8 日

参加者 米山悦朗(79) 國見ゆみ子

越田和男(76) ・ 光江

通訳 セルゲイ・マトロソフ(35)

日程

5 月 1 日 成田発 タシケント泊

2 日 アスラフ村泊

3 日 センチャブ村泊

4 日 ハヤット村泊

5 日 サマルカンド泊

6 日 タシケント泊

7 日 機中泊

8 日 成田着



西天山山脈最西端 KTChimugan 3309m

去年夏、山岳寮の原稿が少ないから山以外の内容でも構わないとのことだったのでマレーシアの歴史調査行の報告をお送りしたが、内容が重すぎ、山岳寮の記事には相応しくないということでボツにされてしまった。今回もまた原稿が少ないのでご協力をというメッセージが発せられたのでまたボツになることも承知の上で懲りもせずこの原稿を送ってみることにした。

私にとって2002年に当時の世界全独立国192カ国の旅を達成したあと、その後現在に至る16年間の旅は当然ながら、どの国も複数回目ということになる。現在私が担当している十カ所あまりのカルチャー・センターでの世界史講座は、受講生の方々の希望がどうしても西洋史に偏るので、講義のネタ探しにとヨーロッパ各国を訪れることが多かった。その中で東ヨーロッパのブルガリア、ルーマニア、ハンガリーの3カ国だけは32年前の1986年に訪れた一回だけの旅をもとに講義をしていたが、時代遅れの話に終わってしまいそうだという懸念からもう一度訪れねばならないと前々から思っていた。そこで今夏、この3カ国を小さなザック一つといういつものスタイルで一人旅をすることにした。

ご承知のように1989年の改革で東欧の国々の情勢は大きく様変わりしてしまった。前回訪れたのは1986年だったので改革前の東欧を旅したことになる。一言で言えば、これら3国、とくにブルガリ

ア、ルーマニアは決して明るい世界ではなかった。社会主義的硬直というか、隠しようのない貧困と、何かにつけて融通の利かない重苦しい雰囲気が漂っていた。改革後の今はその空気が一掃されたとは言わないまでもかなり明るい方向に変わってきたことだけは確かである。以前はニコリともしなかったホテルやレストランの従業員が今では営業スマイルを自然に身に着けている。

さて、私は世界史研究者の端くれなので旅は先ずこれらの国々の歴史的痕跡を辿ることから始めなければいけない。今回の旅で最初に訪れたブルガリアは5世紀の西ローマ帝国滅亡後、中央アジア方面から移動してきたトルコ系のブルガール人が、東ヨーロッパ一帯に居住、移動を繰り返していたスラブ人と混血同化して生まれた国である。正確には人口の多かったスラブ人に吸収されたという方が正しい。その歴史の浮き沈みはかなり激しい。ともかくも第一次ブルガリア帝国と称される国が681年にプリスカ、続いてプレスラフを中心に築かれた。現在の首都のソフィアから東北東へ約350km、列車で約6時間の地点にシェーメンという小さな町がある。その郊外に足を伸ばせばプリスカ、プレスラフの遺跡にたどり着くことが出来る。今はただっ広い平原に石造りの宮殿の土台部分だけしか残っていないが、かなり規模の大きなものであったと思われる。第二次ブルガリア帝国の首

都ヴィリコ・タルノボが周囲を山々に囲まれた地政学的な立地条件を満たしていたのに比べると、どうしてあらゆる方向から攻め込まれる平原のど真ん中に建設されたのかという疑問が残る。第一次ブルガリア帝国は1014年、バシレイオスⅡ世率いるビザンチン(東ローマ)軍に敗退する。「ブルガリア人殺し」と呼ばれたバシレイオスは捕虜にした1万5000人のブルガリア兵を100人ずつのグループに分け、それぞれの99人の両目をくりぬき、残りの一人だけを道案内のため片目にして国に送り返したという。列をなして戻されてきた盲目の兵士たちをこの地で見たブルガリア王サムイルは驚きのあまり倒れ、2日後に亡くなったという。この4年後第一次ブルガリア帝国は滅亡する。その後先述のヴィリコ・タルノボ(ソフィアから東方に約200km)で1185年、ビザンチンに対する反乱が続発しこの地に第二次ブルガリア帝国が誕生する。ブルガリアを東西に横切るバルカン山脈の東部に築かれたこの首都は、蛇行するセントラ川に切り立つ崖の上にそそり立ち、緑の丘に囲まれた風光明媚さが印象的である。全盛時代を極めたといわれるイヴァン・アッセンⅡ世(在位1218~41)の時代につくられたという数々のブルガリア正教会の壁に描かれた素晴らしいフレスコ画が当時の文化レベルの高さを物語っている。しかしこの地もモンゴル人侵入と撤退(1241)に揺れ動きやがて1393年、チムールとの対決で有名なバヤジドⅠ世率いるオスマン帝国軍の支配に組み込まれていく。その後1908年に独立するまで、オスマン帝国との攻防が

続く。

ブルガリア建国1300年を記念して製作された『略奪の大地』(1981年、リュミドル・スタイコフ監督)という映画をご存じだろうか。オスマン帝国ではキリスト教徒の少年を徴用し、改宗後軍事訓練を施しイスラーム戦士とするデウスルメ(強制徴用)という制度があった。ブルガリアの山村でオスマン軍によって拉致され戦士に育て上げられたカイブラヒムという将軍が、故郷の村にやってくる。彼はかつての同郷の住民に改宗を迫り、拒んだものを串刺し刑に処し、自分の父親や弟まで惨殺する。抵抗者は次々に処刑されていくが、ブルガリア人はキリスト教信仰を守り抜くことがブルガリアの地に自由をもたらすと信じて、闘い続ける…。ブルガリアの国民的覚醒を描いた大作であった。

ブルガリアは日独伊三国同盟に味方して敗戦を迎えた第二次大戦後、ソ連支配のもと築かれたジフコフ第一書記による35年間の共産党独裁体制が1989年に民主化の流れのなかで崩壊する。以前に比べて明るく近代化した首都ソフィアの街並みにはまだ観光客も少なく、穏やかな空気が漂っていた。

さて、次に訪れたルーマニアもまた複雑な歴史を歩んだ国である。首都ブカレストでは前回の旅では訪れることが出来なかった「国民の館」の見学にでかけた。訪れることが出来なかったというより1986年にはまだ完成していなかったのである。チャウチェスク政権時代の1984年に着工されたが、まだ7割ほどしか出来上がっていなかった1989

年にはチャウチェスク処刑によって建設は中断された。その後建設が再開され 1997 年に完成した建物はアメリカ、ペンタゴンに次ぐ世界第2位の規模を持つといわれる。部屋数 3000 以上、天井、床、壁はすべて大理石の上に純金の装飾、木材は最高級品のトランシルバニア産のもの。総工費 1500 億円を超える巨大宮殿である。しかし建物内部の芸術性は次に訪れたブダペストのハンガリー国会議事堂には及ばないように思った。建設再開時には経済発展のため巨大ショッピングモールに作り替えようという声が上がったが民主革命の反面教師として歴史に残そうということになったという。

私が訪れた 1986 年のチャウチェスク政権時代には、街のレストラン、カフェにはコーヒーも紅茶もなかった。すべてチャウチェスクが独占していたからだ。街中では闇ドルの交換に目を血走らせた若者が走り回り、治安も決して良くはなかった。しかし人々は親切で頼み事にはほとんど面倒を見てくれるようなところがあった。当時の私は、ルーマニアはスラブ系ではなく、ラテン系だから熱い血が流れているのかなと単純に考えていた。しかしルーマニアの歴史をさらに学ぶと諸民族と各国勢力が幾重にも折り重なった複雑な構造が出来あがっているのが見えてくる。ルーマニアの先住民族はトラキア系ダキア人といわれるが、2 世紀の初めの 106~109 年、ローマ帝国五賢帝時代の 2 代目トラヤヌス帝による征服以後、ローマ人の植民が始まった。ルーマニアがラテン系であると言われる所以である。しかしその後スラブ人と混血共存

が始まり、マジャール人によってつくられたハンガリーによる西からの拡大、神聖ローマ帝国のザクセン人の入植、ブルガリアと同じくオスマン帝国による攻勢、ハプスブルク家による支配というプロセスが重なり現在のルーマニアという国家の多様性が形作られている。特にトランシルバニア地方のシギショアラ、ブラショフ、シビウなどの街中にいるとまるでドイツの一地方にいるかのような錯覚に陥ることがある。

さて次に訪れたハンガリーは 1986 年に訪れた時にも、これが社会主義の国かと思うほど首都ブダペストの街には華やかさが漂っていたが、今回はさらにそれが洗練されたような輝きを感じられた。観光客も前 2 カ国に比べるとはるかに多く、とくに前 2 カ国では殆ど見かけなかった中国人旅行者もよく目立ち、まるでパリかブラハのような様相を呈していた。前回と同じくブダとペストの街の間を流れるドナウ川をはさんでの光景は見るものを飽きさせないような美しさを感じさせる。「美しき青きドナウ」という表現はウイーンでなくむしろこのブダペストのこの光景の方がピッタリする。

ハンガリーはもともとヴォルガ川とウラル山脈の間に住んでいた騎馬民族マジャール人が 9 世紀の終わりにドナウ流域に移動してきて創りあげた国である。しかし 955 年オットー I 世率いる東フランク王国軍に敗れる。オットー I 世はこの功績をローマ教皇に認められ、神聖ローマ皇帝の称号を得る。神聖ローマ帝国はこれ以降 1806 年、ナポレオンによって解体されるまで存続することになる。1001

年、マジャール人の王イシュトバーンがこの神聖ローマ帝国と友好関係を結びキリスト教を受け入れ、現在のスロヴァキアとの国境、西に向かって流れるドナウ川が南に大きく向きを変える地点、エステルゴムで初代王としての戴冠式をあげる。ハンガリー王国の誕生である。今回の旅ではハンガリー中央部(ブダペストから西に約 500km)、今なお牧畜民族が生活するホルトバージを訪ねた。ブスタとよばれる広大な草原地帯を馬でかけめぐった先祖マジャール人の伝統を受け継ぐ人々とも出会うことが出来た。

再びブダペストに戻り、ブダとペストの間にかかる通称くさり橋を見ながら、昔見たハンガリー映画『暗い日曜日』(1999 ロルフ・シューベル監督)を思い浮かべる。戦争の足音が近づく1930年代、この橋の中央部からドイツ人ハンスが自殺を試みる。彼を救ったのはレストランのユダヤ人オーナー、ラズロだった。ラズロは店で働くイロナという女性と愛人関係にあった。しかしイロナはその店でピアノを弾くアンドラーシュにも恋してしまう。「全てを失うよりも半分だけでも我慢する」と言うラズロとアンドラーシュの間には不思議な友情が生まれ、イロナは二人の男性を愛することになる。ハンスはこのイロナにプロポーズして断られて自殺を図ったのであった。全編を通じてシャンソン歌手ダミアが歌う「暗い日曜日」がバックに流れる。映画ではこの歌を作曲したことになるアンドラーシュは戦争の進行に伴いナチスの幹部として戻ってきたハンスに演奏を無理強いされ、抵抗の意味で自殺する。

その少し後ユダヤ人狩りあったラズロを助け出そうとしてハンスに頼み込もうとしたイロナはハンスに無理やり抱かれてしまう。それでもハンスは命の恩人ラズロをアウシュビッツに送ってしまう。50年後にこの店にやってきたハンスは食事中に突然死する。その時まで生きていたイロナが、彼の毒殺を計ったのであった。

何もかも飲み込んで流れて行くドナウのような歴史の中で葛藤する男女の感情の動きを見事なカメラワークで表現した素晴らしい映画であった。ペスト側から見るライトアップされたブダの王宮とくさり橋の夜景はこの映画の余韻をいつまでも感じさせるようでもあった。

これら東ヨーロッパ3カ国は、何度も訪れた西ヨーロッパにはない魅力をたたえている。陸伝いにアジアとつながる東ヨーロッパの民族と国家の歴史は、さまざまな対立と融合を繰り返し、国家形成に至る波乱万丈のせめぎ合いの末、現在の華麗な姿を作り出してきた。幾重にも織り重ねられた陰影あるこれらの国々の佇まいは訪れるすべての人の心に静かな感動を与えるだろう。今回の旅ではこれらの国々の息づかいを前回にもまして肌で感じる事が出来たことが最大の収穫であった。



第一次ブルガリア帝国発祥の地プリスカ



トランシルバニア地方のシビウの街



第二次ブルガリア帝国建国の地ヴィリコ・タルノボ



ハンガリーの平原を疾走する騎馬民族の子孫



ブカレストの「国民の館」



ブダペストのくさり橋
手前がブダ、対岸がペストの街

今からかれこれ40年ほど前、ガチャさんが東京勤務されていたころ。鯉釣りに勤しんでいた。場所は霞ヶ浦の東、少し小ぶりの北浦。ここに小舟を舫って糸を垂れた。獲物は3, 40cmほどの鯉。30cmほどの細つくりの浮子が湖面にスーッと吸い込まれたとき、鯉がかかる。鯉は引きが強い、それが魅力のひとつ。そして食べても美味い。洗い、鯉こく、味噌漬け、ドイツではビールで煮込むらしい。

そんな鯉釣りが高じて、遠征にのりだした。奥只見湖の北にある、黒俣ダム。第一ダム、第二ダムとあり、道は第二ダムの入り口まで。そこから手製のゴムボートにのり、小さなスクリューをまわし、プル、プル、プルとゆっくり奥に向かった。湖面は覆いかぶさる樹林の陰で、くろずんで見えたが近づくと水はあくまで澄んでいた。その先を5, 60cmほどもある鯉が、ゆっくりと泳いで行った。しめしめいけるぜ、勇んで竿をだしたが、あたりは全くなかった。この広い湖に先ほどの鯉が、たった一匹で棲んでいるとは思えない、が浮子はびくりとも動かなかった。

諦めて竿を畳んだが、しゃくにさわる。それで田子倉湖に夜釣りに回った。

田子倉湖も鯉はいなかった。ふてくされて寝ころがり、夜空を見上げると、満天の星空。その中に、ゆっくりと移動する星があった。飛行機ではないし、流れ星のように早くはない。人工衛星だった。それが一つや二つではなく、かなりの数を数えることができた。今夜は人工衛星でも見て、ごろ寝と決

め込む。

一泊二日の鯉釣り旅行も、成果なしで終わった。そんなことをしているうちに、今度は高遠へ足が向いた。理由はよく思い出せないが、ガチャさんが見つけてきたのは確かである。

伊那谷の北、天竜川にとそそぐ三峰川に設けられた高遠湖、それにくっついてすぐ上流に美輪湖。この湖岸に糸を垂れて、小魚釣りを楽しむ。獲物はたいていはウグイ、時たま小ぶりのマスが釣れる。対岸から薫風に乗って唱歌が流れてきた。学校でもあるのか。

卯の花の匂う垣根にホトギス早やも来鳴きて。長閑ないい歌である。この卯の花は空木の花。その花の形に残雪が残る、ということで、ついた名前が空木岳。盟主木曾駒ヶ岳とともに、天竜川を挟んで聳えている。高遠はまさに風光明媚な、今風に言えば絶景の地である。これにガチャさんが惚れた。ここに別荘を建て終の棲家としたい。そう言いだした。本気であった。まず見つけたのが、湖の少し北に入った、小さな集落、芝平[シビラ]、長閑ないいところである。それに土地代が安い。たしか坪2000円だったと思う。

1000坪買っても200万円、ガチャさん買なよ、でガチャさん大いにその気になった。

しかししばらくして、芝平やめた。理由は水道が来ていない。井戸だけでは不安、ということで見送られた。しかし次の年、いいところあったで、高遠町直々の開発地や、これなら安心。と今度は決定した。本気だった。その場所は木曾駒を対岸に、高

遠城址をましたに見下ろせる、まさに風光明媚で別荘地としては一等地であった。それが今の高遠の別荘である。

帰りに桜満開の城址公園に行き、まだこのころ人出も少なかった公園の茶店で、熱燗を頼んで、花見酒を楽しんだ。酒といえば、高遠の酒は美味しい。以前近くの山室鉾泉で宴会した際、出てきたお酒が、大変な美味で酒名は、伊奈錦とのこと。それである日皆でして酒造元を訪ね、幾本か買い込んだ。東京に帰ってさっそく飲んでみたが、灘の酒と変わりはなかった。酒を美味しくするのは、水でもなければ米でもない。米や水なら、日本全国どこへ行っても上等の米と、素晴らしい水が入る。酒を美味しくしているのは、空気、そこの大気である。札幌のラーメンが美味しいのと同じである。高遠は空気も美味しいのである。

最初は小さな山小屋風、二階には梯子で上がる。奥さんも這い登っておられたようだ。

こういうものができたら利用しない手はない。夏はバーベキュー、冬になればスキー合宿と称して、10人あまりが集まって、夜は宴会、昼はゲレンデと大いに楽しませてもらった。毎年毎年このような

楽しみを、ガチャさんからいただいていたが、悪い病がガチャさんに取り付いていた。どうも始まりは20年ほど前に行った、シルクロードの旅あたりから、と思う。出されたものは完食する、食べ物に注文は付けない主義のガチャさんが、何か辛い物は苦手だとか、注文じみたことをいうことがあった。そしてその翌年、癌が発見された。その後は病との戦いが始まったようだ。それでもガチャさんは、病と果敢に戦っておられた。

或る年バブさんと高遠の別荘を訪ね、経ヶ岳に上った際、麓で待っているはずのガチャさんが、頂上まで登ってきた。後日そのことが病後診断で判明、医者にコピッドク叱られたそう。すい臓がんの手術もしたが、それでもスキーを大いに楽しんでおられた。やがてお別れの時が来たのは、ガチャさんが始められた、年寄OB会を引き継いだヤッサンの催した、楯池での会の日であった。2017年6月4日亡くなられたと、旅の空で聞いた。集まっていた皆さんもそうだと思う。散々お世話になり、甘えていたがもうそれもできなくなってしまった。しゃべらないから、あの世へ追っかけていく。

* * * * *

飯田さんの「思い出」に添えて、ホームページ掲示板に寄せられた皆さんの「思い出」をご紹介します

訃報

山本恵昭

田邊さんが亡くなられたとのこと、謹んでご冥福をお祈りいたします。秋の集会前の沢登りや前田館の雪見会で、ご一緒させていただいてよく遊んでいた

いただきました。何年か前に、前田館で仕事の悩みを話していたら、「きみがどんな気持ちで何をしているか、周りの人は全部ちゃんと見ているから大丈夫や」と言っていたことが印象に残っています。また、愛車のレンジローバーを運転させていただいたことも

思い出の一つです。

ガチャさんの訃報に接して

南里章二

昨日、マレーシアより帰国して本日2週間ぶりに掲示板を開いたところ田辺さんの訃報を目にしました。告別式にも参加できず申し訳ない気持ちで一杯です。一昨年の90周年記念式典でお目にかかり久しぶりに豪快な響きのあるお声を聴かせていただいたのが最後になるとは思いもよらないことでした。次号の山嶽寮に原稿依頼している IT 企業の大成功者、葉田順治君(新高47年卒)の才能を彼の学生時代から見抜いておられその慧眼に驚いていました。山岳会の多くの皆様方と同じく私個人も人生の節々に的確なアドバイスをいただき深いところで人生を支えてくださいました。甲南山岳会を象徴されるような御方でした。心よりご冥福をお祈りいたします。

賀茶さんの訃報に接して

牧野 宏

賀茶さん

訃報に接し大変驚いております。お疲れさまでした。我々後輩の面倒をよく見て頂きました。森井さんで語り合ったのが最後になりました。その折しも賀茶さんの温厚なお人柄に触れました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。ご葬儀にお伺いすべきところ、甚だしく体調を崩した娘の静養に付き添い 2 か月ばかりパソコンから遠ざかっておりまして失礼いたしました。

訃報

大森雅宏

田辺さんのこと、実は「甲南ACの三大美男子」だと思っていました。学生時代は、端正な顔立ちの少し硬い目の方、という印象でした。それからだいぶ時間がたって、十何年前。よく沢登りにご一緒した時期があります。その時の印象は、端正プラスオトコマエ。

ファンが多いのは、こんなお人柄からだったのかと思うことにいくつも出会いました。

私の「三大」、で申しますと、田辺さんは「甲南ACの三大大音声」でもありました。声がデカイ。「声がそんなにデカイか？わしはそうも思わんのやがな。はっはっは」という厚くて大きい声がどっかから響いてきそうな気がします。お安らかにと、お祈りいたします。

それぞれのメッセージへのご子息様からのコメントをダイジェストで

ガチャの息子 二男

生前中は、父が格別のご厚誼、ご厚情を賜り、遺族一同心から感謝申し上げます。

今頃ガチャガチャと山岳道具をさわって、何処の山に登ろうかってタバコでも吸って考えている頃だと思います。

父の一面が知れて、少し気持ちが和みました。

息子の 1 人ではありますが、私も仕事の悩みを幾度かした事がありました。すごく悩んでいるときに「お前の好きな様にやれ」と言ってくれた言葉で崖ぶちから救われた思い出があります。

レンジローバーは父が人生最後の車として買い求めました。亡くなる一年前頃から運転を止めさせ、車も数ヶ月間エンジンも掛けずに放置していました。父と相談の上昨年の 10 月より私が父に代わってレンジローバーの面倒をみています。大好きな車でしたので、遺骨の一部を車に乗せて、亡き父とドライブを楽しんでいます。

1963 年の山日記

柏 敏明 (昭41経)

長年の夢であった、アドリア海のクルージングを楽しみ、スイスのジュネーブ、シャモニーを経由して帰国すると、山岳寮の掲示板に、赤字で現在原稿ゼロの悲鳴。山岳寮の編集の末席に在籍した小生も原稿集めの辛さを思い出し、何かを書かねばとの思いに駆られました。只、後期高齢の歳に入り、この暑さで執筆意欲も生じず、手元にあった山日記の丸写しを思いついた次第です。

小生が大学2年～3年の1962年12月～1963年12月の私事を含めた記載をそのまま写したものです。関係ない方には興味がないとは存じますが、一時期の一山岳部員の日々としてご覧頂ければ幸いです。山日記には、授業や練習など、デイリーな事は記入せず、何か特記することがあった事を書いています。なお、当時現役の方の敬称は略させて頂いています。

1962年11月(昭和37年)

30日 学連神戸ブロック会合同キャンプ、於 仁川。参加校、関学、神戸大、神戸商大、医大、甲南。

12月

1日 関学グラウンドにてソフトボール大会。

5日 部会。

7日 スタースポーツ→AAVK 友人宅訪麻雀。

9日 友人達と自宅で忘年会。

11日 八島来宅。

12日 部会。冬山合宿先発隊武田、柏、ちくまで出発。

13日 松本→上高地→明神BH→BC→BCデ

ポ

14日 明神BH→BC設営完了 本隊出発。

15日 本隊BH着、BH→SC

16日 BH→BC→C1(P1)森本、長谷川、神前、水渡、塩路、柏。

17日 C1→6峰ピナクル (Fix 工作長谷川、柏) (ボッカ森本、神前、水渡、塩路)

18日 C1→C2(5・6のコル)長谷川、水渡、柏。

19日 C2→4峰(FIX 工作鶴木、竹中)

No4 イン

20日 C2→6峰デポ地点 竹中、水渡、神前、柏。 No4テントイン村上、神前。

21日 C2→4峰頂上直下 (FIX 工作、水渡、柏)

22日 C2→7峰デポ地点 2年全員6峰FIX回収

23日 C2→C3(3・4のコル)武田、長谷川、村上、竹中、神前、水渡、柏。

24日 C3→5・4のコル 水渡、柏。

柏 敏明 (41年経卒)

25日 C3→前穂頂上→C3(FIX 工作)西穂縦走隊出発。

26日 C3→C2 竹中、神前、柏。

27日 武田、柏、サポート神前C3→D沢→松高ルート2ピッチ→北条新村ルート→小ピナクル夜営

28日 小ピナクル→4峰頂上→C3

29日 C3→C2→C1→B・C 撤収。

30日 B・C→上高地→沢渡→松本→神戸

1963年1月(昭和38年)

1日 六甲ハイツで運転の練習。

- 3日 「アパッチ砦」夙川ゴルフ打ちっ放し。
- 4日 友人来宅 泊まる。
- 5日 部会。
- 6日 「社長漫遊記」「太平洋の翼」フジヤへ。
- 7日 「ハタリ」
- 8日 学校始まる。
- 9日 安井宅。
- 10日 森本宅へ長谷川、鈴木、塩崎泊まる。
- 11日 京屋にて冬山合宿反省会、その後、武田、長谷川、竹中と珉珉へ。
- 12日 井本、伊丹来宅。イカワにスキー受け取り、イケモトで貸靴を借り、安井にスキーを借りる。
- 13日 友人と六甲山スキー、山上で福田さんに会う。
- 14日 安井宅で麻雀。
- 16日 部会。
- 17日 安井、井本、菅と丸善で会い、上高地で山の話。
- 18日 部会 堀田等と山岳部の問題について話し合う。
- 19日 安井、菅と丸善で会う。
- 21日 安井宅でノート写しをする。
- 22日 丸善と宝文館で書籍購入。
- 23日 安井宅で武田とノート写し。
- 24日 安井宅で菅とノート写し、その後ダベリング。
- 27日 友人来宅 三宮へ。
- 28日 越田氏来宅。
- 30日 部会 春山合宿計画発表、菅、竹中来宅。
- 31日 阿部、越田、広瀬、伊藤各 OB、竹中、菅来宅。広瀬、伊藤泊まる。
- 2月
- 2日 竹中来宅。
- 4日 大蓄で、安井、河野、塩崎、鈴木と麻雀をする。
- 5日 「エル・シド」「ロイドの喜劇の世界」
- 6日 部会。
- 8日 追いだしコンパ。丸万にて。その後レインボー、BEBE へ。
- 9日 友人と六甲山スキー、川崎さん小松さんに会う。
- 12日 安井宅へ行く。
- 13日 部会。
- 14日 安井、神前と「太陽はひとりぼっち」「ダイヤモンド・ヘッド」を見に行く。
- 19日 地学辞典→神前
- 20日 部会。スキー合宿 於飯山市手狩高原
1日2食付350円 2月26日～3月6日
- 21日 「偽の売国奴」
- 23日 鈴木と神鍋スキー。
- 24日 //
- 25日 春山利尻先登隊、女子部スキー見送り。
「大番」「ニッポン無責任時代」
- 26日 芦屋ロックガーデン→金鳥山 大津、安井、藤原とパウリスタへ。
- 27日 春山雪崩講習会(ウツボ公園)。
- 28日 利尻遠征隊本隊出発見送り。伊藤、倉藤、二谷、神前、奥山、鈴木とマルサンへ。
- 3月
- 1日 「天国と地獄」「続社長漫遊記」
- 2日 安井と広告取り。「ブーン」「大畜」
- 4日 店にアルバイト。
- 10日 「わんぱく戦争」
- 17日 芦屋ロックガーデン 越田さん。
- 19日 イカワ、長谷川スポーツ、スター ポスター貼。横山来宅 ハイライトへ。

- 20 日 神前に会う。越田さんとちくまで遠見尾根
出発。
- 21 日 神城下川宅→遠見小屋→小遠見
- 22 日 遠見小屋→大遠見→白岳→五龍岳→遠
見小屋
- 23 日 遠見小屋→遠見スキー→神城スキー場
→下川宅
- 24 日 松本→神戸
- 28 日 大畜。
- 29 日 大畜。
- 26 日 竹中来宅。
- 4 月
- 4 日 春山反省会 菅、伊丹、神前と写真を受
け取り、珉珉、コダマへ。
- 14 日 神前に岳人渡す。
- 20 日 芦屋ロックガーデンキャンプ。
- 21 日 ロッククライム パートナー塩路。
- 22 日 河野→登山技術・夏山全書 ←単独登
攀
- 25 日 伊丹、来宅。
- 26 日 竹中と会う 山の道具借りる。
- 27 日 5 月合宿 19:35 ちくまで出発。
- 28 日 大町→鹿島部落→大川出会→西俣出合
BC。
- 29 日 西俣BC→三ノ沢頭ABC 設営。第Ⅱ岩峰
偵察。
- 30 日 塩崎と荒沢のコルから本谷に下り、天 狗
のコルに突き上げる沢を詰め、天狗尾根
を経て、北槍、南槍に立ち、東尾根を経
てBCに戻る。
- 5 月
- 1 日 沈殿。
- 2 日 沈殿。
- 3 日 荒沢北稜→北槍 パートナー水渡。
- 4 日 三ノ沢ABC撤収→出会BC。
- 5 日 出会BC→狩野宅→松本 神前と東京へ。
- 7 日 第2なになにて帰村。
- 8 日 部会 ゼミナール。
- 9 日 井本と丸善へ HJ、AJ注文。
- 10 日 藤原と「良心なき時代」「甘い夜」
- 11 日 新人コンパ 江戸屋にて。大畜に酒井、
大林を預け、その後、寿司。
- 13 日 5 月合宿反省会。
- 15 日 部会。
- 18 日 山祭り。香月、越田、広瀬、伊藤各 OB と
飯田、岡田、伊丹、柏。
- 19 日 八島とパル、百万ドルに飲みに行く。
- 27 日 夏山気象ゼミナール。
- 23 日 岡本バットレス 長谷川、井本、伊丹、柏、
松井、小林、浪川、上本。
- 24 日 実行委員会 丸万 7～9 時 現役希望
者。
- 27 日 鈴木、横山来宅。
- 6 月
- 1 日 塩屋～須磨アルプス。単独行。
- 2 日 須磨アルプス～寒天山～学校。
- 3 日 「登山靴とスキー」→菅「ヒマラヤ山と人」
→井上。
- 4 日 ゼミナール ヒマラヤ戦後の日本隊。
- 5 日 上本、小林、酒井→岳連。山と溪谷→武
田
- 6 日 「山に憑かれた男」→塩崎→「新聞切り抜
き」
- 7 日 浪川→「登山靴とスキー」鈴木→「山に憑
かれた男」
- 10 日 「ヒマラヤ 山と人」→塩路
- 11 日 ゼミナール 剣岳概念。
- 15 日 堡壘RC 八島、松井、柏 夜間キャン

プ。

16日 堡塁RC。

18日 神前宅麻雀 森本、長谷川、柏、泊まる。

19日 「ヒマラヤ 天国と地獄」→水渡

21日 「劔岳」→塩崎

22日 関西学連コンパ ミュンヘン。

23日 ロックガーデン 菅、酒井、墜落負傷。
ヒマラヤ遠征委員会 雨宮宅 福田、小
川、雨宮、越田、広瀬各OB、現役。

26日 「黒部」→塩崎

27日 「処女峰アンナプルナ」→酒井

29日 「ヒマラヤ 天国と地獄」→菅
群巒山岳会会合(於神戸高校)。

30日 岡本バットレス。

7月

1日 ゼミナール 縦走について。神前と「史上
最後の大戦」「日本残酷物語」

10日 夏山合宿出発。

11日 富山→美女平→天狗平

12日 天狗平→雷鳥沢→別山平

13日 別山平→二股

14日 二股→池ノ平 二股→三ノ窓 パートナ
ー鈴木。

15日 二股→ハッ峰→三ノ窓→二股 パートナ
ー塩崎、浪川、上本。
(16日～27日 山日記に記入なし。)

28日 三ノ窓→クレオパトラ・ニードル→左方ル
ンゼ →三ノ窓 パートナー長谷川。

29日 三ノ窓→αルンゼ 山徒倶楽部遭難救
助。

30日 三ノ窓→二股

31日 夏山出発 二股→三ノ窓→雷鳥沢
パートナー浪川、上本。

8月

1日 雷鳥沢→一の越→五色ヶ原 村上、八島
加わる。

2日 五色ヶ原→スゴ乗越

3日 スゴ乗越→上ノ岳

4日 上ノ岳→三俣蓮華岳

5日 三俣→蓮華岳→烏帽子岳

6日 烏帽子岳→船窪岳

7日 船窪岳→針ノ木岳

8日 針ノ木→鹿島吊尾根

9日 鹿島吊尾根→天狗平

10日 天狗平→白馬岳→猿倉→東京

13日 大関さんと会う。

15日 神田古本屋街で「to the Three pole」「ヒマ
ラヤに挑戦して」を購入。

17日 帰神。

19日 府大ジャパンマ遠征隊森さん壮行会。 於
神戸高同窓会館。友人と六甲道で麻雀。

21日 竹中宅 麻雀。

22日 夏山反省会。

24日 付属小学校クラス会 於パウリスタ。

25日 夏山反省会。

9月

8日 神戸高校山岳部、OBと堡塁でRC。

9日 友人達と「大脱出」→G線。

15日 友人達と北山公園飯盒炊さん。

16日 越田宅訪問。

17日 東京へ、大関宅泊まる。

18日 武田と横有恒氏に会う。於毎日新聞社会
議室。

19日 神田で Mountain World 購入。牧野宅寄っ
て大関宅泊まる。

20日 武田と松田雄一氏宅訪問。

21日 神田でマナスル報告書2冊購入。

22日 帰神。

24 日 「末は博士か、大臣か」「温泉巡査」
 25 日 The Third Pole→阿部さん 穂高の岩場
 ←水渡
 26 日 ヒマラヤ→塩路
 29 日 越田宅訪問。八島来宅。
 30 日 伊丹、安井、八島と竹中宅訪問。
 10 月
 2 日 部会。
 3 日 阿部、砂川、竹中、越田、各氏来宅。
 4 日 安井、横山と伊丹宅訪問。
 友人→DAS EDELWESS。
 10 日 冬山偵察 ちくまにて出発。
 11 日 大町→湯又→千天出合
 12 日 千天出合→取付→北鎌コル→北鎌沢→
 千天出合
 13 日 千天出合→北鎌コル
 14 日 北鎌コル→独標
 15 日 沈殿。
 16 日 北鎌コル→槍→一の俣
 17 日 沈殿。
 18 日 一の俣→湊沢
 17 日 湊沢→松本 「鳥」「チコとサメ」
 23 日 神前と「地下室のメロディー」
 24 日 井本、伊丹達と三ノ宮へ。
 25 日 「ローマの休日」「底抜け大学」
 27 日 伊丹と小西宅。
 11 月
 1 日 神前宅。
 2 日 芦屋ロックガーデン RCT。
 3 日 〃
 6 日 友人来宅。
 8 日 ヒマラヤの地図出来る。
 9 日 体育祭前夜祭。
 10 日 体育祭。森本、伊丹と「女はこわいです」

「フランス式十戒」
 12 日 冬山技術セミナー「雪崩」講師横山。
 13 日 八島宅訪問。
 14 日 塩路、見舞いに行く。
 15 日 堡塁 RCT 長谷川、浪川、上本、柏。
 16 日 百丈岩 RCT パートナー上本。
 17 日 〃 越田、伊藤 OB 参加。
 18 日 伊丹、水渡と「日本昆虫記」「男の紋章」
 井本、伊丹来宅。
 19 日 伊丹、安井来宅。
 22 日 友人達と関学ギター定期演奏会。
 23 日 岡本バットレス RCT。
 24 日 〃
 26 日 「スペンサーの山」「僕の伯父さん」
 27 日 安井とコンパについて、関学訪問。
 28 日 神戸医大へコンパについて連絡に行く。
 30 日 AAVK 神戸ブロックコンパ 於修法ヶ原。
 参加校 神戸商大、神戸医大、関学、甲
 南。
 12 月
 1 日 ソフトボール大会 優勝甲南 2 位商大。
 3 日 ゼミナール「ビバーク・雪洞」講師柏。
 4 日 関学部室に行く。小西に会う。
 5 日 部会 山日記、放出ズボン購入。
 講演会「スポーツ医学について」清水源一
 郎氏。「スポーツマンの精神的意義」清
 水善造氏。
 小西、神前、横山とベビーへ。
 6 日 冬山の件で森本、井本と朝日新聞神戸支
 局へ。森本、井本、安井、水渡と広瀬 OB
 に会う。森本、長谷川、井本、竹中、鈴木、
 塩崎、沢田と越田宅訪問。「アルプス・コ
 ーカサス登攀記」
 7 日 打ち上げ練習 学校～金鳥山～風吹岩

マラソン。沢田来宅、泊まる。→「処女峰
アンナプルナ」

8 日 山岳会総会 香月、小川、鈴木、木全、福
井、越田、広瀬、伊藤、飯田、岡田各
OB。

9 日 AAVK 14号編集方針について、小西と会
う。

10 日 3年会 冬山合宿最終打ち合わせ。
記念号について、塩路と越田宅訪問。

11 日 部会。井本、伊丹とスター、好日山荘、ハ
イライト、村上さんより背負子借りる。

12 日 先発隊見送る。神前、伊丹、河野、沢田と
三宮珉珉へ。

13 日 冬山合宿ちくまにて出発。

14 日 信濃大町→濁→湯俣→千天出合
パーティ L井本、水渡、柏、横山。

15 日 千天出合→1 峰→2 峰→3 峰

16 日 3 峰→4 峰→7 峰→北鎌コル

17 日 北鎌コル→3峰→独標基部

18 日 沈殿。フレーム 1 本折れる。

19 日 沈殿。

20 日 独標基部→独標より 300m地点

21 日 沈殿。

22 日 独標より 300m地点→北鎌平直下

23 日 北鎌平直下→大槍基部→大槍→肩の小
屋 長谷川、鈴木と出会う。

24 日 肩の小屋冬期小屋 沈殿。

25 日 沈殿。

26 日 沈殿。

27 日 沈殿。

28 日 肩の小屋→中岳→CII 長谷川、井本、
水渡、鈴木、横山は凍傷。柏は親指だ
け。

29 日 CII→P6→CI→BC

30 日 BC→横尾→徳澤→上高地→中の湯

31 日 中の湯→沢渡→鈴蘭→位が原山荘 午
後スキー。OB、伊丹、越田、広瀬、美田
現役、森本、鶴木、武田、長谷川、河野、
塩崎、柏。

1964 年 1 月(昭和 39 年)

1 日 肩の小屋迄ツアー、伊藤 OB 入山。

2 日 鶴見ツアー 位ヶ原→鈴蘭→松本
鶴木、武田、長谷川とタツミ。倉藤 OB に
会う。「駅前女房」「海底軍艦」

3 日 帰神。

今から、55 年前の一年でした。



むらさきしきぶ (葉式部)

追悼

福井グリーンさんのこと

越田和男（昭36理）

グリーンさんこと、福井實氏（昭和17年旧制高校卒）の訃報に接し色々な思い出がよみがえった。終戦後10年くらい経った頃のラグビー部で小生は中3か高1だったと思う。グリーンさんが山岳部OBで高校時代に北アルプスの数々のバリエーション・ルートに登られていたことや、後に小生が大学時代に山岳部に入ることになるなど、思いもなかった頃のこと。グリーンさん30代半ば、練習に顔を出されたり、試合でレフェリーとして笛を吹かれたことも幾度かあったように記憶する。小柄で敏捷、グラウンドでの白いジャージー姿が眩しかった。

後からお聞きしたことだが、高校時代は山岳部が主で、京大(医学部薬学科)に進まれてからは戦争真っ盛りで山どころではなく、もっぱらラグビーだったとのこと。小生が大学山岳部員だったころに一度だけ山岳部の部室に来られたことがあったが、グラウンドでお見かけしたころのちょっと厳しいお顔つきから打って変わった温顔で、気さくな物言いで話かけて来られたのが印象に残っている。トランプでセブン・リッジに興じていた我々に、博打とんのとちやうかいな、などと。

— — — — —

山岳部での活躍は昭和10年代半ばのこと。小川正守さんの「戦時下の山岳部」『時報』甲南山岳部創立40周年記念号(1964年)の記事及び『山嶽寮』甲南山岳部創立75周年記念号(2001年)の巻末年表「甲南山岳部・山岳会 部員・会員の足跡」から拾ってみると、

○ 昭和13年3月

遠見尾根・鹿島槍天狗尾根・鹿島槍

メンバー;中村成三 赤松二郎 福田泰次

伊藤文三 鷲尾顕 宇尾洋介 福井實

○ 昭和14年3月

穂高・白出沢よりジャンダルム飛騨尾根

メンバー;伊藤文三 福井實

サポート;喜多豊治 鷲尾顕

(人夫;中畠政太郎)

○ 昭和14年7月

剣・小窓尾根池ノ谷側バットレス(初登攀)

メンバー;赤松二郎 小川守正 福井實

○ 昭和15年3月

南股より白馬槍北山稜

メンバー;福井實 国府三郎 塩野良之助

赤松二郎

○ 昭和15年7月

鹿島槍・カクネ里より北壁Bルンゼ

(敗退ビバーク後帰幕)

メンバー;福井實 塩野良之助 小林大二郎

比企能

○ 昭和16年3月

不帰岳第1峰尾根(初登攀)

メンバー;伊藤新一 小川守正 福井實

などがあり、当時の(旧制)高校生の登山レベルの高さがうかがえる。今の高校山岳部では岩登りや積雪期登山はダメ。そして先生に連れて行ってもらった挙句の遭難騒ぎとは隔世の感がある。



昭和14年夏 涸沢

グリーンさん高等科1年(左端)、赤松二郎さん(右端)
小川守正さん(前列左端)



公式記録とは別に、私が初めてグリーンさんの登場する山登りシーンに出会ったのは、学生の頃、小川守正さんがお書きになった「山岳部の思い出」『時報 II・1953』を読んだ時のこと。この小川さんの文章は、その後リバイスされて前記「戦時下の山岳部」にも掲載された、当時の山岳部の状況をユーモアをまじえて今に伝える名文で、何度読み返しても面白い。グリーンさんの登場場面をいくつか拾って紹介しておきたい。

昭和14年7月の劔西面池ノ谷でのこと；

「…それは劔尾根を登る可く、左股からギャップに取付こうとして、約100米位の岩壁を登っている

時、トップのグリーンが落石をやって煉瓦大のやつが小生の肩に命中したのである。…何しろ身動きならぬ岩登りの途中で、落石の音に目をつぶって運を天にまかせて岩にへばりついて待っているところをガン！！とやられたのだから参ってしまい、ザイルを出して赤松の大將に尾根迄引き上げてもらった時は氣惚奄々だった。グリーンは全く恐縮して平身低頭、富山でビールをおごる約束をした」

そしてその翌々日、小窓尾根の池ノ谷側の岩壁を登攀中のこと；

「…今度もグリーンがトップで登攀中またまた落石をやった。一昨日の件でいい加減怖気づいているところだから、当たらない先から“やられた！！”と思って半ば参ってしまった。…脳貧血を起こしてへばってしまったが、…やっとのことで赤松先輩にかえられ意識を回復し、グリーンは散々叱られ、今度は帰りの荷物を引き受ける事を固く誓ったが、この二つの約束は二つながら実行されなかった」

同じ夏の後半、舞台は穂高に移る。ジャンダルムのフェースを目指した小川さん、塩野さんが雨で敗退したあと；

「この翌日国府とグリーンが登ったが、小生の教え方が悪かったのか、国府の聞き方が悪かったのか知らないが、オーバーハングを正面から乗切ろうとしてもんどり打って墜落し、おまけに前日小生の打ったピトンまで抜けたが、グリーの筋金入りの腕で止められた」

実際、グリーンさんの剛腕はすさまじく、何十年も後に、大関邸での花見の折に腕相撲で披露された。グリーンさん既に70歳代中頃だったが、20年近く若い連中が勝てなかったのだ。

— — — — —

山岳部時代のエピソードはまだまだあるようだが、このぐらいにしておこう。最近といっちは何だが、この50年ほどは、グリーンさんも私も関東住まいで、関東では東京甲南会や、甲南の山仲間の集まりは結構あり、ご常連のグリーンさんとは良くお会いした。いくつかの思い出を書いておきたい。

在京のメンバー10名ばかりで、上高地にある日本山岳会の山小屋(山研)に泊りに出かけたのは昭和53年秋のこと。田口さん、松野さん、喜多さん、伊藤文三さん夫妻、グリーンさん、平井、飯田、越田、それに関西からも伊丹(兄弟)、柏(弟)、浪川、渋谷ら加わり、飲めや歌への大騒ぎ。もちろん部歌「山の歌」で締めくくったが、同じ伊藤愿さんの作詞であるラグビー部の部歌を皆さんご存知でなかったことから、グリーンさんと私で歌った。ラグビーから遠ざかって20数年後に、この歌を山仲間の集まりで、グリーンさんと歌ったのは感動的だった。



上高地河童橋にて グリーンさん中段左から2人目

こんな事もあった。東京甲南会のビヤ・パーティが珍しく神田であったあと、グリーンさんから大関と私にお声がかかり、神田で一寸行きたい場所があ

り、付き合ってほしいと。連れていかれた居酒屋で主との交歓しばし。その昔海外旅行で一緒されて以来のお付き合いを大変大切にされている様子にグリーンさんらしい気さくな温かみを感じた。



東京甲南会ビヤ・パーティに参加の山岳部 OB
(左からグリーンさん、越田、森岡、伊藤五介 大関
米山 平井吉夫)

晩年に至るまで、神戸の甲南山岳会の総会にもよく出席されていた。創部90周年記念式典では唯一人の旧制出身者だったし。亡くなる前年、平成29年の総会ご出席は97歳だったから、最高齢記録だろう。ロックガーデンでの慰霊祭では、80代半ばでレリーフまで軽い足取りで行かれたし、下山後の山芦屋の白石うどん店での打ち上げビールも毎回楽しんでおられた。

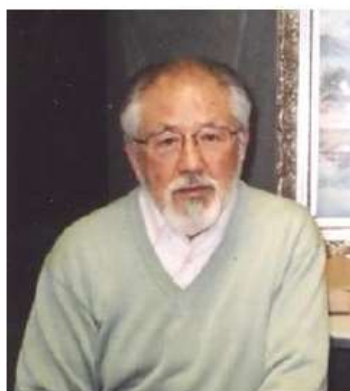
海老名の大関邸での毎年の花見会には、伊藤文三(ノンキ)さんとご一緒だったり、一人で来られたりで、いつも若い者との野外の飲み食いと焚火を夜の更けるまで楽しみ、満足して、しっかりとした足取りでお帰りの。ノンキさんも大関も今は亡く、関東での甲南の山仲間の集いも先細り気味だ。

とにかく気さくな方だった。家に良く電話をいただき、家内が受話器をとると、「甲南のグリーンです」と名乗られた。ニックネームの「グリーン」の謂れは正確には理解してなかったけれど、なんでもグリーン・ピースがお好きだったことと関係があったらしい。

ご自分でも気に入っておられたようだ。

享年98歳の大往生とはいえ、貴重な先輩を亡くし、寂しさ一入です。ご冥福をお祈りして筆を擱きます。

(平成30年8月 横浜にて)



* * * * *

ホームページに寄せられたメッセージ

グリーンさんの思い出

南井英弘 (関西学院大学山岳会)

グリーンさんの訃報に接しお悔やみ申し上げます。初対面から素晴らしい方の印象有り。自分もグリーンさんのような温厚な顔になりたいと願いながら先輩のお元気な様子を思い出し、大関邸での振る舞い、行動が目につかびます。ラグビー部のOBでもあったと知り、もっと戦前の旧制高校のラグビー史についてもお聞きしたかった。

数年前、東京駅サピア・タワーのエレベーター内でお会いした時には共にびっくり。先輩はパソコンを抱えて甲南事務所の「パソコン勉強教室」へ、私はお隣の関学事務所の「パソコン勉強会」に。同じパソコン会、私は関学の最高齢者ですが、遥かなる大先輩がお隣に通っておられることを知り圧倒された思い出もあります。が、お蔭さまで、今なお一歩前進二歩後退を繰り返しながら大人の玩具をいじっています。

グリーンさんのご冥福をお祈りしています。

福井さんのこと

大森雅宏

福井さんは昭和17年に7年制の旧制高校のご卒業。私の亡父は5年制の旧制中学を昭和15年に卒業しています。同い年かもしれない。何かの折にそんなことを思い、戊年のお生まれですか、とお尋ねしたことがありました。

「イヤ、僕は酉年。もう一年上」

医学部に進まれましたよね、には「僕は薬学なんですよ、当時は医学部薬学科でした。でも白衣の時間よりラグビーボール追っかけてる方が長かった。ははは」と澄んだお声でした。生家のお仕事について、「僕の家は薬屋でした。道修町のお宮さんの斜め前。商売が一番上の姉の連れ合いが継いでいました。福井七商店って言いました」

後日、道修町のお宮さん、少彦名神社の資料室で、昭和初期の道修町の屋号入りの地図を見る機会がありました。資料から起こした新しい地図でしたが、福井七商店とその並びを写真に撮って、福井七商店の後継企業である厚和薬品とか三星堂とかメディセオとかの資料と一緒に送りましたら、「実に懐かしい道修町の資料、有難う。娘の家族達に得意げに見せたり話したり。次の会にも是非参加したいと楽しみに考えています」と丁寧なお便りをいただいて恐縮したことがあります。

ご冥福をお祈りいたします。

目次

会員短信

構成 井上知三

秋の集会 (平成29年秋)

名誉会員

平井一正 (名誉会員)

四捨五入したら90歳になります。今は元気です。
一寸先はわかりません。

旧制高校

赤松二郎 (旧14理)

山岳会の秋の集会のご案内有難うございました。主人は2016年6月までは歩行器にすがってコンサートなど行っておりましたが、その後、車椅子生活になりまして老人健康センターに入居しておりました。そこのリハビリ担当の方が甲南山岳会出身の方で戦前の写真や会報など取り寄せてくださり、いろいろ励まして下さいました。6月末に自宅から徒歩10分ほどの特別養護老人ホームに入居できまして衣食住手厚く介護をしていただけるようになり、本当に助かっております。戦前の写真は戦災で焼けてしまいましたが、戦後、私と登った山のアルバムを持って行って元気だった頃の事を思い出してもらいたいと思っています。盛会を祈っております。恵美子

福井 實 (旧17理)

ご連絡有難う存じました。参加したいのは、残念ながら、97歳の現在ではあきらめなければなりません。皆さんのご健闘を祈っています。すっかり忘れてしまった山の色々、穂高ジャンダルムの雪の登山を思い出しております。

(平成30年1月 急逝されました 編集)

新制高校

北方龍一 (新高30)

寄る年波、木曾駒は少々無理です。身体は元気で六甲川の水車新田で小型水力発電を建設すべく環境省、神戸市、兵庫県と連日交渉で

す。

機器も日本製には無く、オーストリアに発注します。神戸市内で初めての水力発電で大変注目されています。皆様に宜しくお伝えください。

竹原佑爾 (新高33)

元気しております。皆様に宜しくお伝え下さい。

丸山霽茂 (新高33)

自宅改築中の仮住まいです。完成引越しの時は再？します。よろしく。

[追伸] 丸山霽茂(ハルシゲ)むづかしい字なのでかな書きでも可です。よろしく!

山城國暉 (新高36)

元気でいます。盛会でありますように。

永島孝男 (新高37)

元気にしています。

大村謙治 (新高41)

今後の連絡は下記にお願いいたします。

福田裕久 (新高45)

毎週のように整体に通っているロートルになりました。現在、孫が3人になりました。

松下弘幸 (新高54)

皆様、ご健勝のことと存じます。まだ、少し暑い日が続きますのでどうぞご自愛ください。

白川浩平 (新高H2)

8月に家族旅行でコロラドへ行きました。ロッキーマウンテンは3000m以上に車で行ける大観光地になっており、夏のスキーリゾートではスキーの代わりにマウンテンバイクでダウンヒルを楽しみました。

大 学

砂川彰雄 (大 32 経)

昨年末に腰を痛み、整形外科に通っています
が遠出はまだ無理のようです。残念ながら今回は
欠席いたします。ご出席の皆様によりしくお
伝え下さい。

宮本 侑 (大 32 経)

体調を崩しております。どうかよろしく願いま
す。

鈴木頼正 (大 33 経)

4月頃より肺の病気が続いています。目下、肺
がんの疑いは少ないと安心しています。しばら
くゴルフは中止していますがフィットネスで体を
鍛え、ハイキングできるように、また、酒も飲める
よう努めます。いつもお世話かけます。秋の集
会を楽しみにしています。

鳥居威男 (大 35 経)

体力も衰え、長い間お世話になりましたが、部
から退きたく、よろしく願います。長い間、
有難うございました。皆様方へよろしくお伝えく
ださい。

田中 孜 (大 36 経)

病気治療中のため、欠席いたします。皆様によ
ろしく。

越田和男 (大 36 理)

山登り→山歩き→山見遊山、気力、体力、知力、
視力…全て劣化著しく加えて腰痛に難儀して
います。

藤安賢一 (大 36 経)

本年2月13日に路上にて転倒。骨折し、右鎖骨
を折り、腰を強く打ち、散歩もできなくなりました。
まことに悲しい状態です。皆様のご健康をお祈
り申し上げます。

牧野 宏 (大 36 経)

ハーバーランドで開催された「神戸産の花の展
示会」の新聞記事。余程ニュースが無かったの
か、花々に囲まれた私の全身の写真が掲載さ
れて、孫に好評でした。

二谷和成 (大 38 経)

元気にしていますが、持久力が年々低下し、山
は無理なので月 1～2 回年寄り仲間と平地歩き
をしています。

森本全彦 (大 39 法)

案内状をいただきながら欠席で申し訳ございま
せん。76歳の年にしては元気にやっています。
次女のダンナと奥穂に登ってきました。岳沢の
上り下り、本当にしんどかったです。沢山の人
で楽しそうですね。

村上与利一 (大 39 営)

土・日は仕事があり、ごめん。

福田信三 (大 39 理)

4月に転居しました。JR六甲道駅南、徒歩3分、
老人には交通便利が何よりです。8月より働き
はじめました。スーパーの肉売り場の裏方です。
牛、豚、鶏で国産、輸入、ブランド物等々でパッ
ク。荷姿も様々で老脳がフル回転です。

塩路晃二郎 (大 40 営)

盛会を祈念します。

鶴木 洋 (大 40 文)

病院で77歳を迎えました。長生きしてほしいで
す。甲南の皆様のご活躍をお祈りしております。
(娘より)

井本 洋 (大 40 理)

皆様によりしくお伝えください。

井上 徹 (大 41 営)

相変わらずのゴルフ中心の日々です。カート利
用のゴルフが中心で、足・腰の衰えは間違いな
く進んでいるようです。そんな中ですっかり山
登りからはご無沙汰状態です。同期の塩崎君
の活躍ぶりにはただ驚嘆するばかりです。

柏 敏明 (大 41 経)

今年もシンガポール、藤沢、スペイン、スキー、
九州でのクルージング等々、身体が元気な間
にと楽しんでいきます。石原さんに誘われて立山
の紅葉を見て駒王に入ります。

國分廣昭（大 43 経）

7月に胆のう取りました。体が少し軽くなりました。元気にやっとります。

森岡宏光（大 43 理）

いつもお世話になります。S43年卒、國分、頼富、佐野、森岡4名で 5/9(火)・5/10(水)中央アルプス乗越浄土山行に行ってきました。5/9駒ヶ根駅集合、菅の台バスセンター～しろび平～千畳敷駅「ホテル千畳敷」泊。温泉風呂感激。明日の為、カールを下見する。5/10 雨のため、中止。駒ヶ根周辺観光後、解散。

赤田正和（大 44 理）

当日先約(法事、オペラ)あり、欠席いたします。社有林管理、運営多忙しています。昨今の水害は正に人災であります。森林に杉・桧を植林しまくった結果です。広葉樹の森を再現すべきであります。広葉樹の利用活用に注力しています。皆さんによろしく。

石原浩二（大 44 里）

時々北アの山に登っています。

南里章二（大 45 理）

毎回のお世話役ご苦労様です。毎度のことながら、カルチャー教室での講座で忙しく、参加できません。皆様に宜しくお伝えください。今夏は二度にわたってマレーシアに出かけました。旧日本軍により虐殺されたマレーシアの華僑の人達の慰霊と歴史掘り起しの旅です。まとまれば報告いたします。

矢吹 操（大 45 理）

元気しております。義母の介護と宮仕えの日々。たまにジョギングで健康維持。なかなか楽しせてもらえませんか。

伊藤辰之（大 45 営）

大和・河内等五畿内の遺跡めぐりをしています。

杉原久夫（大 46 理）

いつもお世話様になります。宜しく願いいたします。

井上知三（大 48 文）

元気しておりますが、今年は住宅の管理組合の理事となり、週末の時間がなく近郊の低山の山歩きにも行けず少し欲求不満です。また、秋の集会にも参加できず皆様とお会いできないのが残念です。ご盛會を祈ります。

平井幹男（大 50 文）

まだまだ暑い日が続いていますが体力維持に毎日ウォーキングをしています。仕事を早く止めて山に行きたいのですが、なかなか思うように行きません。皆様とお会いできるのを楽しみにしています。

村田信一（大 50 経）

家内が春の褒章を受章し皇居に同行しました。次男が再婚することになり、同じ敷地内のマンションに住みます。めでたい年もあるものです。幸せ…… ご盛況をお祈りしています

中澤章治（大 50 文）

いつもご案内ありがとうございます。当日、小生、秋祭りがあり、出席できません。8/16～8/18 白馬から不帰、唐松コースを山荘泊で歩く予定ですが天候よろしからず。温泉巡りになるかも知れません。どうぞ、皆様でお楽しみください。

高橋けい子（大 50 文）

いつもお世話になり有難うございます。まだまだ大阪まで車で通って働いています。

大柳香代子（大 51 法）

近頃は「温泉」がだんだんと比率高くなり「山」は標高差がどんどん低くなり、楽チン「山&温泉」へ。山も温泉も行きたいところがいっぱい人生短くて困るのです。

大森雅宏（大 53 文）

去年5月から古家一軒のリフォームを日曜大工で。この夏、大体終了しました。作業の色々はネット情報を頼りに。仕上がりはぼつぼつですが、各畜家の私としては材料代だけで一年遊べて結構楽しい時間でした。60歳を超えて睡眠時間は短くなりましたが気は長くなったみたいです。

要 裕晶（大 55 営）

昨年4月から4度目の東京勤務です。60 を超えての単身生活ですので、身体が鈍らないよう週3回ジムに通っております。11月には二人目の孫が誕生予定です。

住友健時（大55 法）

帰国予定がありませんので欠席します。

川野幸彦（大56 理）

元気にしています。ご無沙汰しております。秋の集会には、残念ながら参加できません。盛会をお祈りしております。山には時々出かけていますが、年々体力不足を感じております。来年は還暦です。ハードな登山はそろそろ終了かもしれません。皆様によりしくお伝えください。よろしくお願い申し上げます。

山本恵昭（大56 理）

ヒザ痛、腰痛、ケンショウ炎とあっちこちにガタが来っていますが、騙しだまし山へ海へ出かけています。

青木雅夫（大57 経）

いつも案内ありがとうございます。

八木 健（大58 経）

毎回のご案内ありがとうございます。NHKで佐々木氏の「デナリ滑降」を見て、感激しました。今回も出席できませんが、ご盛会を祈念申し上げます。

西名俊英（大61 理）

いつもご案内有難うございます。5月に網膜剥離で緊急入院、手術後一週間で退院しました

が、無理して眼を使った為か、自律神経失調症となり、療養中です。

松山弘和（大61 理）

最近バイクでうろうろしています。来年こそは体力をつけて山に行きたいです。久しぶりに秋の集会に参加いたしますので、よろしくお願いいたします。

阿部康彦（大H6 法）

体力は衰えてきましたが、クライミングは続けております。すっかり中年になりました。来年は公私にわたりチャレンジの年にしたいと思います。

橋田豊彦（大H12 経）

失礼しております。宜しく願い申し上げます。

池内友宏（大H ** 理工）

まもなくオープンして1年になります。精一杯やっています。

森本寛之（大H19 理工）

久しぶりの参加となります。5年のタイ・バンコクの駐在を終え、神戸に戻ってきました。家族での参加を希望します。

谷 勇輝（大H20 理工）

ご案内、有難うございます。生憎、当日は所用の為、参加できませんが、また、ホームページにて様子を拝見いたします。

出欠ハガキの「会員短信」

総会・秋の集会は、甲南山岳会会員全員にご案内しています。
出欠連絡にあわせて、ぜひ近況を会員短信でお知らせください。
いただいたコメントは、ほぼ全文掲載しています。

総会・慰霊祭（平成30年春）

名誉会員

平井一正（名誉会員）

86才になり、すべてがしんどくなってきました。長年の故障が一気にふき出たという感じです。山登りもままなりません。年はとりたくないですね。

特別会員

鈴木敬吾（特別会員）

当日、予定が入っており欠席いたします。

旧制高校

赤松二郎（旧14理）

老齢のため出席出来ません。ご盛会を祈ります。

鷲尾 顕（旧15文）

ご連絡頂きましてありがとうございます。
住所変更：

宜しくお願い致します。

福井 實（旧17理）

ご連絡がもれていた様で申し訳ありません。父實は本年1月27日に急死いたしました。これまでのご厚情に感謝いたします。

長男 淳

新制高校

北方龍一（新高30）

年令相応の健康状態です。六甲川水車新田の小規模水力発電設置で何かと多忙です。

平井 吉夫（新高32）

ガチャと二人で取り付けたブラックの慰霊碑を、ガチャの慰霊のために参るときが来るなんて、思いもよらないことでしたが、情けないことに、その体力がなくなりました。4月22日の慰霊祭には、全力をこめて私の思いをロックガーデンに送ります。

竹原佑爾（新高33）

皆様に宜しくお伝え下さい。

永島孝男（新高37）

東京で商用の為、欠席致します。皆様に宜しくお伝え下さい。

福田裕久（新高45）

身体のあちこちに变化を感じながらボチボチと過ごしております。

松下弘幸（新高54）

皆様お変わりなくお元気にご活躍のことと存じます。私は相変わらず、日米を行ったり来たりしております。

白川浩平（新高H2）

先日、ふと妻と息子を連れてロックガーデンへ行きました。「俺が本物のロックガーデンを見せてやる！」意気込んだのはよいものの、ものの見事にルートを間違えて親父の面子が丸つぶれでした。後日息子とリベンジしましたが、なかなか楽しい思い出となりました。

北川裕也（新高H17）

住所変更：

大 学

砂川彰雄（大32経）

いつもお世話様です。一昨年の暮れに腰を痛め杖をついて歩いています。遠方へは無理なので残念ながら欠席致します。

鈴木頼正 (大 33 経)

甲南山岳会お世話になります。この頃の近況【心境】は物忘れがひどくなった。気がつくと同じ話を何度もしている。消しゴムで消すように記憶が欠けていくと情けない！

越田和男 (大 36 理)

杖を頼りにヨチヨチ歩き。電車の中で席を譲られることが多く、嬉恥ずかしいです。それでも人に迷惑をかけぬ程度の里山歩きは続いています。

伊藤久三郎 (大 36 経)

毎日病院通いを続けております。
皆様によろしくお伝えください。

田中 孜 (大 36 経)

リハビリ中です。そのため
欠席します。

藤安賢一 (大 36 経)

入院中です。

牧野 宏 (大 36 経)

数ヶ月前から西宮市甲子園口に仮住まいしています。その家から武庫川河川遊歩道まで徒歩2分です。遊歩道は宝塚にかけて簡易トイレ完備で10km続きます。キッズラガーズ・サッカー・野球・武庫川女子大カヌー部【大学3連覇】の練習を見ながら雨天以外は2時間程度ウォーキングを楽しんでいます。

二谷和成 (大 38 経)

元気にしていますが、もう山歩きは無理です。
慰霊祭は失礼します。

福田信三 (大 39 理)

久しぶりに総会に参加いたします。よろしく。

武田雄三 (大 39 経)

元気しております。このところ二日にあらず豊能町に出向き桜田【130～140 本】の下草刈りや孟宗竹の間伐に励んでいます。

村上与利一 (大 39 経)

日曜日の慰霊祭には出席したいと思っておりましたが、残念ながら仕事で、ガチャさんには申し訳ないです。

森本全彦 (大 39 法)

喜寿を迎えお別れする方が増え寂しい限りです。去年は岳沢経由で穂高吊尾根を歩いてきました。しんどさはありますが、まだどうにか山歩きは出来そうで、今年は何処に行こうかと。総会・慰霊祭の盛会でありますように。

鶴木 洋 (大 40 文)

元気であればきっと慰霊祭に行ったと思います。
病床から皆様の活躍をお祈りしております。
(娘より)

塩路晃二郎 (大 40 営)

盛会を祈っております。

伊丹徳行 (大 40 法)

幹事さんご苦労さまです。

柏 敏明 (大 41 経)

幹事の皆様には、色々とお世話いただきありがとうございます。慰霊祭には所用の為、出席できません。次々と会員の方がお亡くなりになり、さみしい限りです。慰霊碑の前で部歌を歌いたかったのですが残念です。心からご冥福をお祈り致します。

井上 徹 (大 41 営)

山登りはもとよりマラソンや激しい運動が困難な身体になってしまいました。肺気腫です。カート利用のゴルフを細々と楽しんでおります。

國分廣昭 (大 44 経)

まだ元気に働いています。

岸田昌雄 (大 44 文)

今年71才、未だ人生最後に岸和田祭りに古参で参加します。毎度ご苦労さまです。

石原浩二 (大 44 理)

時々山に登っています。

赤田正和 (大 44 理)

当日出勤日の為欠席します。前日まで出張とまだ現役です。4/10～12 新人研修で新宮で植林体験させます。山林の管理多忙です。盛会祈ります。右翼活動(笑)不二歌道会・宮城遥拝・日の丸行進等続けてます。

南里章二 (大 45 理)

先日、北海道にスキーに行ってきました。ここ数年毎年のように北海道に通っているのでスキーがうまくなったと思い込んでいたら、また下手になっていました。もともとうまくなかったのでしょうね。

矢吹 操 (大 45 理)

元気です。古希を迎えましたが、まだ使ってくれる会社があり会社員をしています。義母の介護もあり自由になる時間が少ないです。

井上知三 (大 48 文)

この4月で集合住宅の理事の仕事が終わりホッとしています。これからは低山の山歩きを以前のようにやりたいと思います。それとチョット泣き言。事務担当から解放されないでしょうか？

平井幹男 (大 50 文)

今年は仕事のボリュームを少し落として、山歩きから始めていこうと思っています。山岳会の行事にも都合のつくかぎり参加したいと思っています。

高橋けい子 (大 50 文)

いつもお世話になっております。山嶽寮70号寄稿(拙い文章でしたのに)のお礼にと大森君からペーパーウェイト(部室の机の天板から)を頂き嬉しくなってホームページを開きますと福井大先輩の訃報が・・・今年も総会でお会いできることを楽しみに(失礼な言い方ですみません)にしておりましたのに残念です。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

中澤章浩 (大 50 文)

昨年は蓮華温泉続いて白馬岳に行きました。30年ぶりの白馬岳は雪溪が変わってしまい少雨の中、結構登りにくい山になっていました。あるいは体力のせいかも知れません。21・22両日は保育士の試験があり行けません。残念です。皆様に宜しく。

村田信一 (大 50 経)

結婚式の予定と重なり欠席します。SNSやGPSなどのツールの進歩は目覚ましいですね。福井に親戚が出来て大雪の大変さが理解できま

した。里山を歩くことが増えそうです。ご盛況お祈りしております。

渋谷一正 (大 51 営)

盛会をお祈りします。

大柳香代子 (大 51 法)

お世話になります。ここ数年、冬の上高地のハイキングを楽しんでいます。昔の釜トンネルを知る者としては天国のようなトンネルを二つ抜けて目の前に広がる大正池やかっぱ橋からの風景は有難味がちがいます。

松下哲夫 (大 52 理)

最近、標準体重にすることができました。これを維持して気持ち良く山歩きが出来る様に努力しようと思っています

大森雅宏 (大 53 文)

通勤時ビルのガラスに映るわが姿に驚き。背中丸くてジジイ歩き。これではいけないと、頭のてっぺんからぶら下げられたイメージを心がけるようにしています。通勤はあと2年ほどの予定。

鳥井陽子 (大 54 文)

ご案内ありがとうございます。ポチポチ・休み休み・ニコニコ山歩きしています。

住友健時 (大 56 法)

元気にしていますが今年も帰る予定が無いので欠席致します。皆様によりしくお伝えください。

山本恵昭 (大 56 理)

先日、ニュージーランドに山旅に行ってきました。あいにく警報レベルの大雨にあい、道は川、岩壁は滝となり、全身ずぶ濡れ、靴の中はグチョグチョになりました。でもさすがアウトドア先進国でした。徹底した環境保全をしつつ自然を思いっきり楽しむスタイル。勉強になりました。

川野幸彦 (大 56 理)

元気で過ごしております。今年4月に還暦です。昨年、右ひざを痛め、山登りは全く出来ませんでした。今年はどこかに出掛けたいと思います。総会には出席します。よろしく願い致します。最後になりますが、いつもご連絡をくださり、あ

りがとうございます。

西岡 進 (大57理)

ご案内いただきありがとうございます。当日、夜勤となっており参加できません。盛会をお祈りしております。

八木 健 (大58経)

毎回ご案内ありがとうございます。慰霊祭は参加しようと思っておりますが、集合時間には行けそうにないので、昨年同様単独で行く事になると思います。当日お会い出来る事を楽しみにしています。

西名俊英 (大61理)

ご案内いつもありがとうございます。網膜剥離の手術後の無理がたたって体調を崩して半年程休職。漸く復職したところです。先日、PTAの親睦行事で鎌倉アルプス?へハイキングしました。北鎌倉駅から源氏山・銭洗弁天・高德寺(大仏)・長谷寺への拝観もでき、とても心地よい半日を過ごせました。

松山弘和 (大61理)

体調不良のため、総会のみ参加いたします。

松成 健 (大H8文)

最近、仕事が忙しく、あまり山に行けてないです。今シーズンは仙台の山を1月の末に登ったのみです。なのにホームセンターでスノーシューを見つけ衝動買いしてしまいました。いっどこで使うかも不明なまま買った事に後悔しています。

橋田豊彦 (大H12経)

失礼しております。また、機会がありましたら宜しくお願い致します。

森本寛之 (大H19理工)

住所変更:

谷 勇輝 (大H20理工)

昨年3月に結婚式を挙げ、約1年が経ちました。妻は現在東京で仕事をしている為、別居生活です。その為、大阪で独身生活【別居生活】継続中です!日々、クライミング・アイス・スキー・

ロードバイク・フィッシング等々趣味を謳歌していますが、最近仕事が忙しくなってきました。...

ご遺族

本田依子 様

いつもご案内ありがとうございます。引越して荷物持を持ちすぎ腰を痛め歩く元気がありません。残念ですが欠席します。皆様のご活躍をお祈りしています。毎年祈っております本当にありがとうございます。

乾 恵美子 様

いつもご案内を頂きありがとうございます。久しぶりに参加させていただきます。とても楽しみです。今現在、健康でたまの山歩きができることに感謝しております。当日、お天気でありますように祈っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

横山嘉壽子 様

ご案内ありがとうございます。娘に2人目が出来にぎやかになりました。今年は長男(3才)が父親(砂川)と参加予定です。どこまで行けるかわかりませんが、よろしくお願い致します。

樋口雅子 様

慶太のひ孫、湧太は今年甲南高校を卒業いたしました。他大学に進学いたしましたので、甲南大学山岳部に参加することができず残念に思っております。湧太の弟、達也は甲南高校に進学いたしました。2人共学校の都合で参加できず申し訳ありません。皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

小林綏子 様

夫亡き後8カ月経過いたしました。私も九〇才になりますが元気な間は一人暮らしをするつもりです。あたたかいお言葉感謝申し上げます。

福井 淳 様

お手紙ありがとうございます。残念ではありますが、私は腰の具合が芳しくなく、申し訳ありませ

んが欠席させて頂きます。

田邊由美 様

お知らせありがとうございます。主人が生存中は大変ご厚情を賜りまして心から御礼申し上げます。光陰矢の如し六月で一年になります。私共は恙なく生活しております。

田邊由美 様

吹く風もこちよく感じられる今日このごろでございます。この度は大変お世話になり厚くお礼申しあげます。銘板を見ておりますと感慨無量

でございます。あちらできっと山岳部のの人たちと、たのしく語り合っていることでしょう。時々中央道を走り高遠を訪れています。心も身体もいやされ今の私にとっては至福のひとつでございます。どうぞ山岳部のみな様にくれぐれもよろしくお伝え下さいませ。くれぐれもご自愛下さいませ。御礼のご挨拶まで。



平成30年 慰霊祭にご参加のみなさん

日 時 平成29年10月7日(土) ～8日(日)

場 所 木曽駒文化公園内宿泊施設「駒王」(長野県木曽郡日義村)

次 第 10月7日 受付 夕食・懇親会

10月8日 朝食 記念撮影 部歌斉唱【山の歌】

参 加	鈴木敬吾 特別会員	雨宮宏光 昭33経	鈴木頼正 昭33経	越田和男 昭36理
	飯田 進 昭38経	二谷和成 昭38経	武田雄三 昭39経	安井 正 昭40経
	伊丹徳行 昭40法	柏 敏明 昭41経	塩崎将美 昭41経	浪川純吉 昭42営
	國分廣昭 昭43経	石原浩二 昭44理	平井幹男 昭50文	渋谷一正 昭51営
	松下哲夫 昭52理	松山弘和 昭61理	平井吉夫 新高32	川村静治 新高40



平成 30 年度山岳会総会

事務局 井上知三

日 時 平成 30 年 4 月 21 日 (土)

場 所 平生記念館

出 席	平井一正 名誉会員	雨宮宏光 大33経	鈴木頼正 大33経	牧野 宏 大36経
	二谷和成 大38経	武田雄三 大39経	福田信三 大39理	村上与利一 大39営
	安井 正 大40経	伊丹徳行 大40法	柏 敏明 大41経	浪川純吉 大42営
	石原浩二 大44理	南里章二 大45理	井上知三 大48文	平井幹男 大50文
	松下哲夫 大52理	大森雅宏 大53文	山本恵昭 大56理	森本寛之 大H19理工

次第・報告

1. 会長挨拶 平井幹男

2. 平成 29 年度 事業報告

1) 慰霊祭 松下哲夫

・天候に恵まれ 16 名の参加

2) 木曽福島 集会 代 平井幹男

・例年通り駒王で開催 20 名の参加

3) 山嶽寮 代 大森雅宏

4) 大学山岳部の現状 平井幹男

5) 中高山岳部の現状 平井幹男

・大学は現在も休部状態、他大学でも部員不足は深刻な問題 / ・中高も部員数 0

6) 会計報告 山本恵昭

・報告の通り承認(明細は別掲)

3. 平成 30 年度 事業予定

1) 慰霊祭 松下哲夫

・例年通り開催予定

2) 木曽福島集会 渋谷一正

・10/6~10/7 にて開催予定

3) 山嶽寮発行 代 大森雅宏

4. 議事並びに報告事項

1) 山岳会会計について 山本恵昭

・29 年度は赤字決算
・今後の会費納付状況は会の存続問題につな

がる

2) 山岳会の今後について 平井幹男

3) 会費徴収について 山本恵昭

2)・3) については一括して意見交換

○ 運営資金の問題

○ 若手会員の参加促進の問題

(案内はがき全体の回収率 約 40%)

・学年で連絡を取り、会費納入に理解を求める

・行事参加についても同様とする

・会費納入者を公開する (次ページに掲載)

・銀行口座に加えて郵貯口座を活用する

・現行の遭難対策基金・現役海外遠征援助を
年度会計に統合する

・会費年額 4 千円は据え置く こととした。

4) 他学 3 校との交流について 平井幹男

・飯田会員主宰の雪見会において、神戸大・関
学大・関西大と甲南の更なる交流を深めたい、
との意見がでたことから、情報交換の場を持つ
など今後も相互に交流を図ることとした。

5) 甲南 100 周年関する寄付等について

平井幹男

・昨年の総会でクライミングボード作成の条件
で寄付に協賛したい、との意見により大学当局
と折衝したが、すでにクライミングボードの設
置計画は終了しており、当会の関与には至ら
なかった。クライミングボードの設置について
はかねてより当会の提案していた事柄であっ
たが、遺憾な結果になった。

・寄付により存在感を示してはいかがかか意見
については、検討の結果これを採用しないこ
ととした。

議事・報告に続き、参加者全員により部歌を斉唱し、
総会を終了した。

平成29年度 会計報告
【収支決算表】

平成30年3月31日

上記のとおり報告します。 会計担当 山本恵昭
監査の結果、適正に処理されたと認めます。 会計監査 平井幹男

平成29年度 会費を納入された方々 (P44 総会報告関連)

赤松二郎	旧14理	鷺尾 顕	旧15文	伊藤長次郎	旧21理	前田金剛	旧24理
米山悦朗	新高29	川村静治	新高40	坂田茂樹	新高42	松下弘幸	新高54
砂川彰雄	昭32経	雨宮宏光	昭33経	鈴木頼正	昭33経	伊丹弘忠	昭35経
鳥居威男	昭35経	伊藤久三郎	昭36経	廣瀬健三	昭36経	牧野 宏	昭36経
二谷和成	昭38経	福田信三	昭39理	武田雄三	昭39経	村上與利一	昭39営
森本全彦	昭39法	井本 洋	昭40理	鶴木 洋	昭40文	安井 正	昭40経
伊丹徳行	昭40法	柏 敏明	昭41経	塩崎将美	昭41経	浪川純吉	昭42営
上本武夫	昭42法	鈴木敬吾	昭43理	國分廣昭	昭43経	赤田友則	昭44理
石原浩二	昭44理	南里章二	昭45理	矢吹 操	昭45理	杉原久夫	昭46理
井上知三	昭48文	山本真博	昭48理	平井幹男	昭50文	高橋いづ子	昭50文
中澤章弘	昭50文	渋谷一正	昭51営	松本好博	昭52法	松下哲夫	昭52理
大森雅宏	昭53文	鳥井陽子	昭54文	山本恵昭	昭56理	川野幸彦	昭56理
西名俊英	昭61理	松山弘和	昭61理	松成 健	大18文	谷 勇輝	大120理工
森本寛之	大120理工						

(平成30年9月11日現在 終身会員・平成30年度分以降を含みます)

慰 霊 祭

担当 松下哲夫

平成29年4月23日、快晴の天气で慰霊祭を実施できました。

芦屋川駅集合で、國分さん(大43卒)、石原さん(大44卒)、南里さん(大45卒)、井上さん(大48卒)、平井さん(大50卒)、大森さん(大53卒)、鳥井さん(大54卒)、山本さん(大56卒)、八木さん(大58卒)、谷さん(大H20卒)、川村さん(高40卒)、樋口湧太さん(香月初代会長の曾孫さん)の13名参加予定でしたが、八木さんが急な要件発生で完全の別行動となって、高座の滝の上の堰堤ですれ違いとなりました。

従来昼食場所が斜面で不安定でしたので、今回、レリーフから見える少し戻った場所に変更しました。少し岩がごろごろしていましたが、斜面でなく景色も正面にブラックとレリーフ(双眼鏡で)が見える場所で皆さんには好評で、平井会長が「甲南テラス」と命名されました。

11時20分レリーフで黙祷、写真撮影し「甲南テラス」へ移動し昼食。食後、部歌斉唱し、12時30分現地解散。



甲南山岳会は会員の皆様からの応援と会費で運営されています。

山嶽寮 70 号でご案内しましたように、

会報「山嶽寮」は会費をご負担いただいた方

を中心にお届けしております。

会費の納入について、引き続き格別のご理解とご協力をお願いいたします。

会費年額 4,000円

山行と集い その他もまとめて一挙掲載

構成 大森雅宏

平成29年4月～平成30年3月

ロックガーデン 山本恵昭 4月23日

高座の滝から2つ目の堰堤でキャンプしていました。現在、荒地山にいます。山桜がちょっと残っていて、ツツジが満開です。コシアブラはまだまだでした。良い天気です。



慰霊碑遠望 川村静治 4月24日

慰霊祭お世話になりました。甲南テラスから見た慰霊碑(赤丸の中に白っぽい三角が目印)です。右手ブラック頂上で休憩する人と登っている人が見えます。



慰霊祭 松下哲夫 4月23日

快晴の天気です慰霊祭を実施できました。

(コメントは前のページ、慰霊祭報告を
ご参照ください 編集)

下の写真はレリーフから見える「甲南テラス」です。



慰霊祭・甲南テラス 越田和男

慰霊祭の度に食事するところが何となく落ち着かない場所だとの思いでいました。いい場所を見つけてくれて良かったです。松下君の写真で見る限り、ブラック下の谷を下って、奥高座の滝へ向かう左岸の岩場の上だと思いますが、記憶に残る懐かしい岩場です。甲南テラスに是非行って見たいです。場所は少し違いますが、学生の頃、まだロックガーデンの灌木が今ほどでなく、見晴らしの良かった頃のことですが、やはりブラックと甲南レリーフをトイメンにみる尾根上で、日が暮れるまでテントに戻らず、夕日に映える岩場に見とれて過ごしたことを思い出しています。同行の廣瀬ポンは覚えているかな。

おっさん五月山行 大森雅宏 5月6日

リーダー山本と五月山行に行ってきました。燕山荘から蝶が岳。行ったことのないコースです。歩くことなんてないだろうと思っていたコースでもあります。リーダーの「きつといい眺めです」に連れ立って行ってきました。コース自体は緊張ありません。ごっつい登りとごっつい下りと、体力重視です。おまけに最終日の天気が悪そうというので、3泊4日を1日間引いたので2泊3日に。結構ハードでした。帰神して体が痛くて半日寝たきり。

山自体は実際「いい眺め」で、あそこ登った・あそこ歩いて・あそこ滑ったがいくつも思い出されました。前穂の4峰。奥叉から見ると甲南ルートは右の端のはずれのルートですが、常念あたりからは正面に見えます。かねて古い時報の「4峰甲南ルート」の岩場の図が、頭でっかちでてっぺんにびよんとでっぱりのあるキューピーの頭かエジソン電球みたいで違和感があったのですが、実際目にするとあの図はうーん間違っていない。近藤さん山口さん長く失礼いたしました。



立山の雄山 川野幸彦 5月7日

連休最終日です。明日からの仕事、やる気が出ません。大森さん、山本さんお疲れ様でした。以下、連休前半の山行の報告です。

4月28日金曜日

21時50分発の富山行きの夜行バスに乗り込んだ。ほぼ満席だが、登山者は私だけ。三列シートだが非

常に不安定で爆睡できず、睡眠不足で富山に到着した。

4月29日土曜日 曇り→吹雪

早朝5時頃に富山に到着。地鉄とアルペンルートを乗り継ぎ室堂へ。空は高曇り。立山そばを食べ雄山を目指す。一の越までは問題なし。小休止後に雄山を目指す。天気は確実に悪化している。風が強い。この時点で立山三山縦走を諦め雄山の往復とした。頂上直下で吹雪となったが、何とか山頂に到着。直ぐに下山にかかる。その時、登りで前後していた女性に声をかけて一緒に降りようと誘った。二人で下降に入ったが吹雪で視界が20m。とても下降できる状況ではないと判断し、私は時間待ちのビバークに入ったが、女性(浩子さん)は下に家族がいるということで下って行った。その後彼女は戻ってきて一緒にビバークした。結局、天気は回復せず、朝まで震えながら過ごした。久しぶりのビバーク。吹雪の3000mがこれほど寒いとは。参りました。風が強くてコンロも使えずに辛かったです。

4月30日日曜日晴れ

快晴の朝。昨夜はほとんど眠れなかった。オジヤを食べフラつきながら下山。浩子さんは元気一杯だ。一の越で浩子さんと別れ、富山へ。疲れた。

燕岳から蝶が岳 山本恵昭 5月8日

大森さんから、「今年は地図に線が書いてあるところ」というリクエスト。では、今まで行く機会のなかった常念岳へ、折角の連休なので燕岳から蝶が岳まで3泊4日でのんびり景色を見ながら行く縦走計画を組みました。しかし、最終日に天気が崩れる予報となり、結局2泊3日で駆け抜けることになりました。連日の10時間行動に、足はつるは、食欲がなくなるはで、思ってもよらずしんどい山行となりました。

5月3日 穂高駅無料駐車場で仮眠し、4:53のバスで中房温泉へ。さすがに表銀座の登山口、老若男女、人だらけである。準備を整え6:30に出発するが、合戦尾根は行列で嫌気がさしてくる。そして暑い。燕山荘に11:50、燕岳はカットして先に進む。雪が

残る夏道を辿り、最後の急登を終えると大天井岳山頂16:00。目前には、北鎌尾根を従えて槍ヶ岳が聳えている。ちょっと下って大天荘冬季小屋へ16:20。今夜は我々を含め7名の利用。座って水を作っていると何度も足がすり、ストレッチを繰り返す。

4日 大天荘6:00発。快晴の中、稜線散歩気分であるが昨日の疲れが取れず、足が重い。横通岳からは道に雪もなくアイゼンを外す。常念山荘9:30からはひたすら上り、やっとのことで常念岳山頂に11:00。何度かアップダウンを繰り返し、絶好の展望台、蝶ヶ岳に15:00。あとは、広い尾根をゆっくり進むと、16:00蝶ヶ岳ヒュッテのテント場に辿りつく。

5日 夜明け前から2時間ほど、ボーっと槍穂高を眺めて過ごす。遅めの朝食後、7:00発でトレース横のゆるんだ雪面をザックザックと下り、三股に10:00到着。予約客待ちのタクシーに声をかけてもう一台呼んでもらい、穂高駅駐車場まで5500円。

Morgenrohtの穂高連峰、朝の光に輝く槍ヶ岳。進むにつれて、槍穂高の絶景が少しずつ角度を変えながら迫り、見惚れていました。穏やかな尾根から険しい山を見るのは、お気楽で良いですね。

あわよくば、4月から長野勤務の娘の家で仮眠をして帰ろうかと企てましたが、本人は立山でのお仕事で留守。諦めて、シャクナゲの湯で汗を流した後、速攻ドライブで何とか渋滞に合わずに帰ってきました。



(無題) 飯田 進

登山というものから、次第次第に遠ざかっている小生にとって、残雪期の表銀座を歩けるとは、羨ましい限りです。30年ほど前の真夏、小生中房温泉から登りました。大汗をかいて稜線に出たら、幟が二本立っていました。生ビール、と書いてありました。小さなコップで一杯1000円、高い。がいたしかたなし、一杯が二杯となって燕頂上はあきらめました。この日西岳の小屋に泊まって、あくる日槍を超えて下山。槍沢の中ほどで冷たい湧き水を見つけて、持参したウイスキーで一杯。同行の酒好き仲間、下山の酒は、二俣以降にしようと思いきや、この野郎酒癖悪い。だんない、だんないといふやうに、結局ばてばて、這う這うの体で上高地にたどり着いたのを思い出します。この酒癖の悪い奴、前田館の壁に山の写真を沢山飾ってある写し主です。

山の麓から眺めるだけの山家より、日出る稜線を歩く山家に、恙なきや。

表銀座関連 山本恵昭

まだ10代の頃、6月に燕岳から槍ヶ岳、上高地に一人で出かけたことがあります。若い頃は無茶をするもので、連日の大雨を気にすることもなく平気で行動していました。

東鎌尾根を登っていると道全体が泥状となり、

何とか斜面で均衡を保っていた泥が、足を置くところ置ところ、ドドッと崩れて谷に流れていき進めなくなりました。こんなことが起こるんだと驚きながらも、それではと泥斜面に点在する石の上を飛び石で調子良くピョンピョンやっていると、二抱えほどある石が泥から抜け落ちて転倒。石と一緒に数m転がり、私の体はハイマツに引っかかりました。しばらく何が起こったのか理解できず、雨の中呆然と。今でも、大きな石がゴロンゴロンとスローモーションで白い谷間に消えていった様子が鮮明に頭に浮かびます。その後、どうやって槍までたどり着いたのか記憶にありません。

晴れた小梨平でツエルトを張り、降る雪のような化粧柳の綿毛に包まれながら、人智を超えた自然の魅力に引き込まれてしまったように思います。

腰痛や腱鞘炎と人並みに体にガタが来いますが、まだまだ山に海に遊びたいと思います。

梶池自然園 川村静治 6月5日

6月4日、5日の集会の後自然園に行きました。ミズバショウが雪の中から咲き出していました。展望台から白馬、八方尾根がよく見えました。



スズコキャンプ 塩崎将美 6月11日

山に登らず宴会だけ参加して来ました。

いつもの様に根曲がり筍や山菜のフルコースを堪能、酒も美味しい話も弾み楽しみました。お土産までもらい感謝です。嫁さんも喜んでます。今夜はタケノコご飯だそうです。持つべきものは心優しい後輩たち、有り難う。



スズコ 大森雅宏 6月11日

スズコ採り、わいわい行ってきました。

高々1時間の藪漕ぎ、上り下りを含めても3時間くらいなのですが、山靴ではなく長靴で入ってるからでしょうか、脛と太腿が痛い。割とたくさん採れました。帰っての皮むきがナカナカの作業。

山本リーダーにはお世話になりました。ご参加のみなさんもうかがいしました。

スズコキャンプ 山本恵昭 6月12日

スズコキャンプにご参加の皆様、有難うございました。

今年は雪が遅くまで残っているとのことで昨年より約1か月遅らせての実施でした。心配していた雨の予報も吹き飛んで、暑過ぎない絶好のコンディションとなりました。ちょうどよい時期のスズコが沢山収穫でき、虫入りも思ったより少なかったです。いつもながら、いろいろな方のお話が聞けて楽しかったです。

土曜4時半から、葉ワサビポイントで収穫、宴会場所の確認、そしてブナ林徘徊。10時に皆さんと合流後、神大ヒュッテ周辺でスズコ採り。夕方からスズコ皮むき、宴会。日曜は朝食後解散してから、再び入

山して誰も居ない新緑の森へ。人を警戒していないアカゲラやミソサザイを間近で見ながら、この時期の氷ノ山を堪能しました。

赤松二郎先輩 阿部康彦 7月3日

ご無沙汰しております。先日、赤松先輩が西宮の仁川近くの聖徳苑という特別養護老人ホームへ転所されました。一時、健康状態がお悪くなり、施設から病院へ入院もされていましたが、持ち前のバイタリティで持ち直し、回復され大分元気になっておいでです。先輩諸氏から教えて頂いた、様々な情報をお話させて頂きました。山の話はご家族も知らない事もあった様で奥様、娘様も皆様に感謝されておりました。ご家族様からはご了解頂いておりますので旧知の先輩方、お近くの先輩方良かったら赤松先輩を尋ねて差し上げて下さい。案内:聖徳苑(しょうとくえん):西宮市段上町6丁目 24-1 阪急仁川または甲東園から徒歩15分 バス:仁川から阪急バス逆瀬川行き「仁川口橋」下車徒歩3分 です。

曇登雨湯 その1 山本恵昭 8月20日

お盆に帰ってきていた娘を送っていくことを口実に長野の娘宅を訪問し、そこをベースに山三昧のはずだったのですが、連日の不安定な天気には振り回され、思ったほど山には入れませんでした。でも、曇りのタイミングに何とか山へ登り、雨の日は温泉にじっくり入湯し、趣のある夏を過ごしてきました。

8月14日早朝娘宅に着く。天気予報は14:00頃から雨。当初、娘と黒部の支流の沢登りに行く計画であったが、連日の雨予報、しかもゲリラ豪雨ということで中止。代替案は、2泊3日で針の木岳から種池までの一般登山道の縦走。これなら少々の雨でも、なんとかなるだろう。

娘宅から扇沢まで、1時間半ほど。なんだかんだと遅くなり、10:50 扇沢の登山口を出発。下山する人達とすれ違いながら、何とか雨が降る前にテント場に着きたいとハイペースで登る。大沢小屋に12:00。しばらく進むと雪溪上に降り立つ。上から吹き下りてくる

風が冷たく、昨日の神戸の暑さが嘘のよう。ノドと呼ばれる所は、雪溪が崩れて左岸のガレ道で高巻く。針の木小屋に14:30到着し、テントを設営。

信州側はガスでおおわれているが、黒部側はガスの切れ間に視界があり、七倉岳の奥に槍が時々姿を見せる。時々小雨がぱらつくが、たいしたことはない。娘は「蓮華岳に行こう」と誘うが、それは勘弁してよ。夕食を食べ終わると、いつのまにか寝ていた。

8月15日5:20 針の木小屋発、6:10 ガスで展望ゼロの針の木岳着。ガレ道を下ると、黒部側のガスが晴れた。緑色の水をたたえた黒部湖の向こうに、立山、剣が堂々と聳えている。行く予定だった御山谷はかなり不安定な雪溪が残っており、諦めて正解。スバリ岳、赤沢岳と順調に進んでいくが、意外と岩場が多い。学生の時、3月合宿で七倉岳から白馬岳まで縦走したが、この辺りずっと通過して、全く印象がない。若いうて、すごいことだったんですね。鳴沢岳を超えると10:20新越山荘に着く。外は霧雨。ジュース1本買って、しばらく小屋内で休憩させてもらおう。岩小屋沢岳を超えて、12:30 種池山荘着。ゼリーを買って、小屋の中で休憩。予定ではここでもう1泊だが、雨のテント泊も気乗りがしない。明日の予報も雨なので、もうひと頑張りして下山してしまうか迷う。霧雨は次第に強くなっていく。ピザ1000円の表示が目に入り、とりあえず、ピザでも食べようと。靴を脱いでロビーに上がりこみ、テレビを見ながら、まったり過ごす。

ピザパワーが効いて、下山に決定。13:30 発。小雨の中、ひたすら下る。最後あと10分ほどのところで、急に大粒の雨が降り出す。扇沢16:00着。久しぶりの10時間半行動でへろへろ、でも娘は元気。

大町の薬師の湯で汗を流し、娘宅へ。青春18きっぷで追いかけてきた妻と合流。



曇登雨湯 その2 山本恵昭 8月20日

8月16日足は筋肉痛だが、白根山の湯釜の立ち入り禁止が解除されたという娘の情報で、妻と行ってみることにする。結局、車で上がると雨なので諦めて、そのまま草津温泉へ。朝から大滝の湯へ入る。合わせ湯という低温から高温へ次第に体を慣らしていく入湯方法で、46.2℃の浴槽へ挑戦する。浸かつては、横の木の枕でごろ寝を繰り返すともう温泉通気分。湯畑を観光ぶらついていて、趣のある公共浴場「白旗の湯」が目に入った。外で余韻を楽しんでいる人の雰囲気が良いので、つられて入ってみる。脱衣所のすぐ横に湯船2つがあるだけ、熱い方は47℃。強烈な硫黄臭、pH2.1の酸性。うーん、草津の湯だ。夕方娘宅へ。タオルも服も体も硫黄臭い。

8月17日雨の予報が晴れに変わっている。ただし、夕方からまた雨の予報。妻と志賀高原の大沼池から赤石山に行くことにする。長野市内では雲の合間に青空も見えていたが、志賀高原ドライブウェイを登っていくと、またガスの中。でも昨日よりまし。清水名水公園の駐車場に車を止めて、8:00 出発。林道歩き1時間で大沼池、遊歩道を辿りレストハウスに9:20着。視界はあるが、周囲の山はガスがかかっている。急な木の階段道に手古摺りながら、赤石山 10:45。山頂付近だけ岩場となっている。天気が良ければ大沼池が美しいとのことだが、周辺真っ白で霧雨も。大沼池レストハウスに 12:00 に戻り、タケノコ汁を注文。スズコとサバ缶の味噌汁で温まる。来た道を戻り、駐車場に 14:00。

ダメ元で、白根山の湯釜へ車を走らせる。運よく着

いたときは晴れ。駐車場代を払って、湯釜の見える展望台まで散歩。緑の湯釜に荒涼とした風景に、蔵王を思い出す。駐車場に戻ると急にガスに包まれて、大粒の雨。天気に振り回されている感じ。

娘がお勧めの万座温泉に行ってみる。豊国館という古い宿に日帰り入浴する。飾り気のない雰囲気が良い。白濁した硫黄の強い湯も、素晴らしい。ゆっくり露天風呂入っていると、大粒の雨が降ってくるが、備え付けの傘をさして気にせず入り続ける。今夜は車中泊の予定であった。しかし、ここが気に入ってしまう。急をお願いして自炊泊3800円で泊めてもらうことにする。自炊室には、コンロもレンジも鍋も皿もそろっていて自由に使える。たまたま調理していた神戸のご夫妻は、年に何度も来るそうで今回も5日ほど滞在するらしい。残念ながら近くに店がないので、我々は持っていたカップ麺とパン、受付で買った漬物とビールで過ごす。何度もゆっくり入湯し、贅沢を楽しむ。夜中、雷と共に、とてつもない豪雨となる。車中泊でなくて良かった。

8月18日朝から入湯。チェックアウト後は湯畑見学散歩するが、硫化水素噴出中ということで近づけない。小布施で発芽そばと更科そばを食べ比べ、若松院で北斎の天井画と一茶の瘦せガエルの俳句を作った池などを見学。15時頃小布施スマートインターから上信越道に乗り、渋滞に合わずに22時頃神戸に帰宅。

帰宅してテレビを見ていると、中央道で土砂崩れがおきて通行止めとのことびっくり。天気予報がころころ変わり、突然大粒の雨が降り出すような異常な天気が続く信州でしたが、雨の合間をぬって、自然を楽しんできました。

暑気払い 塩崎将美 8月24日

有志が集まってワイワイやりました。



アラスカ観光 川村 静治 8月26日

7月に娘とアンカレジ周辺を旅行しました。

アメリカで last frontier と呼ばれる自然が残っていました。



アラスカ2 川村 静治 8月26日

氷河とフィヨルド



アラスカ3 川村 静治 8月26日

アンカレジ近郊のフラットトップ山からはるか真っ白いデナリ山がのぞめました。

サンダーバード滝、エクルートナ湖にも行きました。





思い出京都 2007 年 8 月

五山送り火に誘われて

鈴木頼正 9 月 28 日

柳沢氏からアッシン(芦田君)と大文字山送り火を見に行かないか?、鬼(小原さん)は行けたら行くと言ってる、と電話がありました、2007 年 8 月 16 日の事です。

午後 3 時半前に京都地下鉄鞍馬口駅からエレベーターで外に出ると電車の向こう側、バス停のベンチに柳沢(りゅう)さんとアッシン 2 人が座っていました。

もう鬼(小原さん)は来ないから出かけようかと言って、すぐ鴨川べりに繰りだしました、途中うどんや屋に立ち寄り、ビールを飲み、腹ごしらえをして、進みました、浴衣姿の家族連の後を追って、途中の河原にマットを敷きその上にシラフを載せて、早速二人は北大路のコンビニでビールとつまみを買いに出かけました、付近は鴨川べりの人も少なく、いよいよ 8 時近くなると大の字の点検が行われているのが双眼鏡で確認できました、まもなく夜空を焦がす火文字に見入りました。

送り火は、お盆に迎えた先祖の霊を送り出し、無病息災を祈る伝統行事ですが 9 時前にはすっかり火も消えました、

それから下賀茂近くのバス停まで歩いてゆき、四条行きのバスに乗り芦田君行きつけの店をはしごして飲みました、10 時過ぎに三人は分かれ、阪急線、

京都バス、JR とそれぞれ帰路は別々に帰りました。

居酒屋でのアッシンの話、ある時酒に酔って、誤ってゴミ箱に頭から突っ込み、もがいているとパトカーが来て助けていただき、住まいを聞かれ、パトカーに載せて近くまで来ると、ここで降りて、気を気を付けてお帰り下さいと言われた、もう少しなので、家まで送って下さいとお願いすると、ここから先は業務地域外なので気をつけてお帰りなさいと、面白い話に酒が一段と進みました。

お知らせ 平井幹男 10 月 6 日

大学の食堂跡地に内部に食堂が入ったホールが完成し、壁の一部にボルダリングの壁が九月末に完成しました。壁の見学と試登を依頼しましたが、今回見学のみ許可になりました。

興味をお持ちの方は 10 月 14 日土曜日の 13 時に大学の学生部にお集まりください。

今後、試登を兼ねて使用できるように大学と交渉していくつもりですが、とりあえず見学のための許可となりました。力不足で申し訳ありません。

浅間山外輪山 絶景 山本恵昭 10 月 11 日

9 月の連休に計画していた南アルプスの沢登りは、台風のために中止。この 10 月の連休で再度計画するも、7 日(土)が雨予報で再び中止にしました。夏の盆休みも大雨で沢登りを中止したので、今年の沢登りはすべて実施できずに残念。天気には勝てません。

その代わりといっは何ですが、群馬の娘宅を訪問することにしました。4 月に東京から長野に転勤したばかりなのに、早くも 10 月から嬬恋に転勤ということで、別荘のように利用してきました。

7 日(土)引っ越したばかりの娘宅に妻と訪問し、車でホームセンターや中古自動車屋などへ買い物のお付き合ひ。雨の日の有効活用。

8 日(日)朝から快晴。浅間山外輪山へ向かう。娘も行くというので、妻と 3 人で 6:50 に出発。7:40 車坂峠に着くとビジターセンター駐車場はすでに満車一歩手前。南の佐久市側は雲海に覆われて美しい。

8:20表コースで出発。道は基本樹林帯内であるが、時々視界が開けると遠くに北アルプスの連なりが望める。シェルターを過ぎると、槍が鞘で浅間山が突然目前に現れる。10:15トーマの頭まで来ると、東面、外輪の内側が切れ落ちて絶景が広がる。外輪の岩壁に囲まれた浅間山の裾野がカラマツの黄葉に覆われ、ナナカマドの紅葉が点々と広がる。その衝撃的な景色に言葉を失う。外輪山の黒斑山を経て、11:15蛇骨岳で昼食。外輪壁のJバンドを下り、黄色のカラマツ林に行く。小さなカラマツが、下るにつれて大きくなっていく様も面白い。13:20分岐から草滑りの急登を登り返して、14:10再びトーマの頭へ。中コースを辿って、車坂峠駐車場へ15:25。ビジターセンターのバルコニーでキャベツソフトを食べて、帰恋へ戻る。途中、キャベツ畑で農作業中のおばちゃんからキャベツ2個200円を購入し、夕食のサラダ and 鍋の具に。

9日(月)今日も快晴であるが、妻が昨日頑張りすぎて足に違和感があるそうなので、登山は中止。朝8時から近所の半出来温泉へ。素朴な民宿の温泉で、花に囲まれた露天風呂でのんびり。そのあとは再びホームセンターで買い物。洗濯機などの接続をして、娘宅を後にする。

途中、鹿沢温泉の由緒ある紅葉館で、そばを食べて入湯。14:00頃に出発。岡谷IC経由で帰るが、大渋滞に合い、神戸に着いたのは23:00となってしまった。

浅間山は、現在警戒レベル2ということで、レベル1の時には登ることができる前掛山は立ち入り禁止になっていました。神戸からはあまり訪れる機会がない地域ですが、このタイミングで登ってみて大正解でした。トーマの頭からの眺めは、ここ10年くらいのベスト5には入る、感動の絶景でした。



カニキノコキャンプ 山本恵昭 10月11日

昨年のカニキノコキャンプは、日程上11月6日のズワイガニ漁解禁日に当たってしまい、残念ながら上手く仕入れることができませんでした。今年のカニキノコキャンプは、11月18日(土)19日(日)で行いたいと思います。いつものように扇の山畑ヶ平駐車場に10時集合でキノコ探し。下山後温泉、夕方から浜坂で宴会の予定です。晴れ男のはずだったのですが、今年は行いが悪いのか天気にも恵まれませんが、この時期、雪が来るかもしれませんので、暖かいご準備を。参加ご希望の方は、掲示板、メール等でご連絡ください。

甲南大学 新施設見学 谷 10月14日

本日平井会長と二人で、学生部の方に付き添っていただき、大学の新施設iCommons(以前の学食跡地に建設された建物で9/21にOpen)内にあるボルダリング専用ウォールを見学に行って来ました！

高さ約3メートル、幅約9メートル、角度の異なる壁が3面。現段階で、利用できるのは、初回講習を受講した学生及び教職員のみとの事です。

クライミングボードのある部屋には他にランニングマシンなどのトレーニングマシンがあり、トレーニングの一環としてクライミングボードが設置されているイメージです。設置に至った経緯など、学祭部の方では分からないとの事で、後日設備を管理している管財課へ伺ってみる次第です。

因みに iCommons では OB や部外者でも、決められた時間であれば、施設内のレストラン(ショッピングセンターのフードコートのような感じ)で食事もとらそうです。夜はビールも飲めるようです！

お近くの方はふらっと立ち寄ってもいいかも知れませんね。



雪便り 飯田 進 11月5日

11月1日の雪だより。

八ヶ岳ナシ、北岳薄っすら、木曽駒ナシ、穂高連峰薄っすら、常念ナシ、白馬連山薄っすら、妙高マバラ、火打真っ白、米山真っ黒、谷川連山ところどころ、以上。紅葉は全山真っ盛り。

投入堂 塩崎将美 11月5日

三徳山に登り投入堂を見てきました。登山口で靴のチェックがあり私のスニーカーは底がツルツルだ

からだめワラジを買えと言われるも誤魔化して通過。クサリ場で登りも下りも大渋滞で往復 3 時間もかかりました。断崖の窪みにどうやって建てたのか不思議。



投入堂 平井幹男

塩崎さんへ

懐かしい写真です。子供たちがまだ小学生低学年の時に訪れました。その頃は麓に立て

看板があり、足元に注意されたし・・・、ぐらいで
検問所ありませんでした。子供たちは元気に
鎖場を駆け上っていました。私たちの家族連
れ以外にあと二組ぐらいでとても静かな雰囲気
でした。20年前位昔のことですが。

Re: 雪便り 塩崎将美 11月5日

飯田さん写真はないのですか？

大山も2、3日前に初冠雪したらしいですが見逃し
ました。紅葉は真っ盛りです。鍵掛峠からの南壁で
す。樹水高原からの夕日と焼けた大山です。



荒島岳 山本恵昭 11月6日

11月3日福井の荒島岳に行ってきました。
勝原スキー場の駐車場に車を止めて、出発。ちょっ
と下りもありましたが、基本的にはひたすら急登。ジ
グザグにせずに、よくまあこんなにまっすぐ作った
なと思うような登山道を汗をかきかき上る。中間部の

ブナは黄葉が美しいが、上部は葉がもう落ちている。
笹原を進むと、山頂に到着。快晴の中、360度の展
望。白山の山頂部は白く冠雪。黒い御岳山、乗鞍岳
のシルエット。その奥に白く輝く穂高連峰。ちょっと
尖がって見えるのは槍ヶ岳。下りの途中、立派なブ
ナ林でキノコ探索。でも全く見つからず。今年はナメ
コ不作年でしょうか。大野市でキューピーの湯という
へんテコな名前の銭湯を見つけて汗を流す。430円、
レトロなお風呂でした。

翌4日は日本海側は朝から雨の予報となっていたの
で、他の山は諦めて夜には帰宅しました。



カニキノコキャンプ 山本恵昭 11月19日

土曜日は一日雨。山に入るのは諦めて大森さんに
小屋に残っていただき、朝から浜坂へ買出しに行き
ました。浜坂のスーパーに行くとなが一杯。予定され
ていたカニ祭りが悪天で中止になったとのことでした。
セコ蟹を一人1枚ずつと鍋用に雄ガニを2枚、その
他、安くて面白そうな酒のあてを購入。スルメイカー
夜干し、カレイ干物をあぶると、香ばしい香りが小屋
中に。香住鶴の冬季限定しぼりたて生酒をぐびりと
飲んで、宴会スタート。ビールもワインもウイスキーも。
安井さんがご自宅で調理された牛スジ大根、平井さ
ん手作りのサーモンやチーズのスマークと、酒に合
う御馳走が次々と登場。下見の時に何とか探し当て
たナメコとムキタケと購入したカニを鍋に放り込むと、
キノコのトロトロにカニの風味が合わさり絶品でした。

デザートは塩崎さんご持参のフィナンシェ、安井さ
んの奥様手作りのゼリーと、贅沢なフルコース。

雨は夜半に雪に変わり、朝出発時には積雪20センチほど。浜坂港で谷君が合流。競りは海が荒れて相場が高い目とのことでしたが、何とか安くカニを手に入れて解散しました。

だんだん山に入られる方がいなくなってきましたので、カニキノコキャンプもそろそろ潮時かと。来年からは、また別のやり方ということにしようと思います。

明神山 山本恵昭 11月26日

11月23日姫路の北部、福崎の明神山に行ってきました。夢やかた駐車場に車を止めて、Cコースから山頂へ。最後はこれでもかという急登でしたが、山頂からは360度の展望。常連のお祖父さんいわく、県内の主な山はここから見えるとのことでした。Aコースで下山。CからAは、通称「年金コース」と言うそうです。山頂往復3時間ほどでしたが、ちょうど紅葉のタイミングで、途中岩場もある変化に富んだコースを楽しみました。

山本恵昭



下山後、夢やかたでは新そば祭りがおこなわれていて、ざるそばを注文。香りと甘みがあるコシのしっかりしたそばでした。

雪見会 飯田 進 12月16日

来年の雪見会

2月3日中心に行います。ここ2、3年1月は天気が悪かったので、2月にしてみました。体力の限界、が近づいてきたので、メーンが温泉に代わってまし

た。梅池周辺は温泉の宝庫、温泉に浸かって蕎麦を宛にきゅーっと一杯、ご賛同の方奮ってご参加ください。

歩き納めは高尾山 越田和男 12月23日

今年の後半は、腰痛特にひどく、里山歩きも儘ならぬ状態でした。現在鍼灸で治療中。そんなわけで今週、山歩きの対象ではなく観光地ですが、高尾山599mで締めくくりました。往復ケーブル利用、頂上までほんの百数十メートルの標高差、標準タイム30分のところを、藤安イーチャンの保久良山詣でを思い浮かべながら、一時間かけてやっと辿りつき、赤ワインで乾杯(信仰の山なので日本酒の方が良かったかも)。師走の平日なのに結構な人出で、山歩きの出で立ちの人達もちらほら。こんなのにも付き合ってくれる仲間がいて幸せでした。来年はしっかり腰痛を治して、バブさんのペースにはとてもついて行けませんが、甲南の仲間とも歩きたいです。

西穂 大森雅宏 1月8日

年末の飲み会で、リーダー山本から「年明けの連休どっか行きませんか?」。で、西穂に行ってきました。ロープウェイ利用。高度を運賃で贖う。入山1時間。ちょっと登って小屋に到着。ロープウェイさままま。

翌日行動3時間+下山に1時間。一応西穂を目指しました。ヘッドランプの電池を交換して出発。稜線烈風。地吹雪に耐風姿勢。独標で引き返し。リーダーはもう少し前進したいようでしたが、還りがヘリになったら困るので要望を容れてもらいました。

西穂高 山本恵昭 1月8日



大森さんの投稿の通り、西穂独標へ行ってきました。
天気は良いのですが、風が強くて飛ばされそうでした。久しぶりの厳冬の山、景色は抜群でした。

雪見会 飯田 進 1月12日

雪見会参加される方

1月25日までに、日にち具体的に。何日の夕食から何日の朝食まで、と言う具合にお願いします。

新年会

石原浩二 1月15日

食べ、飲み、話し、笑った新年会でした。



雪見会 飯田 進 1月23日

一足お先に雪見会やとります。今日現在、参加者 17名 米山、柏 安井、水渡、塩崎 上本、石原、平井、井上、山本、岡、飯田、神戸大4人
抜けている方、お知らせください。



雪見会 山本恵昭 2月4日

飯田様

毎年ながら、お世話になりありがとう御座いました。
3日は神戸大の山田さんと白馬乗鞍岳の中腹まで登ってバックカントリースキー。4日は半日券でゲレンデスキー、ゴンドラ中間駅コースをほぼノンストップで8本ほど。すいていたので高速大回りで滑り、堪能しました。



雪見会 飯田 進 2月6日

雪見会ご苦勞様でした。小生4日 バブさんの写真撮影にお供して、糸魚川から米山へ、ホワイトアウトの高速道路を迷走、日本海の荒波と、十日市場の山中の写真を撮ってきました。地元の人のお話では、そんな吹雪の日には高速道路は走らないことです。県道を走れ、とのことでした。肝に銘じた一日でした。

雪見会のお礼 山本恵昭

神戸大 居谷さんから雪見会のお礼です。



先日は雪見会へ、はじめて参加させていただきありがとうございました。なつかしい平井さんや井上知三さんとお話できたばかりでなく、たくさん参加された甲南のつわものの皆様の迫力と陽気さに感銘を受けました。今後ともよろしく願いいたします。

万座 山本恵昭 2月13日

嬌恋の娘のところに行っていました。

万座スキー場でひと滑り。とっても寒く、万座亭の温泉に入って温まりました。ログ風で雰囲気は良いのですが、加水されていて薄い感じで残念。夏に行った豊國館のお湯が強烈な酸で、印象強すぎたのかもしれませんが。近道をしようと除雪されていない道を進んでいると、前に5台ほど車がスタック。待っていても全然動かないので見に行くと、先頭車両がスタック。周りのみんなで押して動きだしても、また直ぐにスタック。相談してバックすることに。でも、後続の3台がバックでスタック。私が持っていたスコップで掘り起こしたり、木の枝を敷いたり、押したり、半日かけてやっとのことで除雪されたところまで脱出。スタッドレス+チェーンでも、2駆では穴掘ってばかりで動けていなかったです。うちのスーパーカーは全く問題なく進めました。帰り道も雪、雪、雪！ここまでくれば大丈夫と、恵那峡SAで仮眠して目をさますと、フロントガラスに雪が積もって真っ白。路面も真っ白。緊張ドライブ。雪国を堪能してきました。

ついでに、往きに休憩がてら寄った諏訪湖のおみ渡りも。



神戸大氷ノ山小屋 山本恵昭 2月25日

神戸大山岳部の学生さん、OB と神戸大小屋利用で、ハチ高原までのぶん回しスキーツアーに行ってきました。遠征同行メンバーの矢崎くんが猪肉一肩を持ってきたので、なんだかんだで私がさばくことに！焼き肉、鍋と猪肉三昧。朝の霧が風で飛ばされて、風下側だけ谷を埋めるように残り、幻想的な景色となりました。





観梅会 牧野宏 3月6日

3月3日。絶好の観梅日和。

恒例の保久良さんに集まり、楽しいひと時でした。安井幹事長 今年も大変お世話になりました。ありがとうございました。



ニュージーランド 山本恵昭 3月25日

急に休みがとれそうなのと、ルートバートラックのキャンプサイトにキャンセルが出たのが重なって、思い切ってニュージーランドに来ています。21日から全ての予約と準備を始めて、23日夜に出発というドタバタでしたが、なんとかクイーンズタウンにつきました。今日は買い物など準備をして、ゴンドラで展望台

に行ったり、鳥公園でキーウィなど固有種を見て楽しみました。

明日デバイドというところから山に入って、28日にルートバーンシェルターに下山予定です。

今日は良い天気でしたが、明日から雨予報。コースのハイライトの27日は大雨とか。トホホ！

ルートバートラック 山本恵昭 3月29日

昨日、無事下山しました。前半は大雨に祟られて、道は川、崖は滝、大変でしたが、後半は雨もやみ、絶景を楽しみました。

(巻頭「山行」のページをご覧ください 編集)

花見 塩崎将美 3月30日

大津へ行って来ました。カンさんの案内で満開の桜の疎水から三井寺を散策してきました。



今年は カムチャッカ と パタゴニア (P67~)

カムチャッカ 塩崎将美 7月28日

カムチャッカに来てます。アバチャ山麓標高1000m 辺りを花ハイクしました。



カムチャッカ2 塩崎将美 7月28日

花ハイク



飯田 進

塩崎さん、アバーチャもいいけれど、肝心の
コリャークス見せてよ。雨オトコがいるからダメ
か？

塩崎將美

残念ながらカメラには有るのですかスマホで写してません。帰ってからUPします。代わりに温泉の写真。



飯田 進

これ、パラトンカ？ ヘー囲いができてる。

熊 塩崎將美 7月31日

熊を見る現地のツアーに参加しました。ヘリコプターで1時間の飛行たでクリル湖へボートに乗って10分、熊たちが魚を捕って食べてます、迫力満点。川岸を銃を持った案内人の後を歩くとほんの2~3mの所を子熊を連れた母熊がウロウロ、此方は電気柵で守られてます。帰りに温泉に浸かりツアー代金は少々高いが大満足でした。



塩崎將美 7月31日

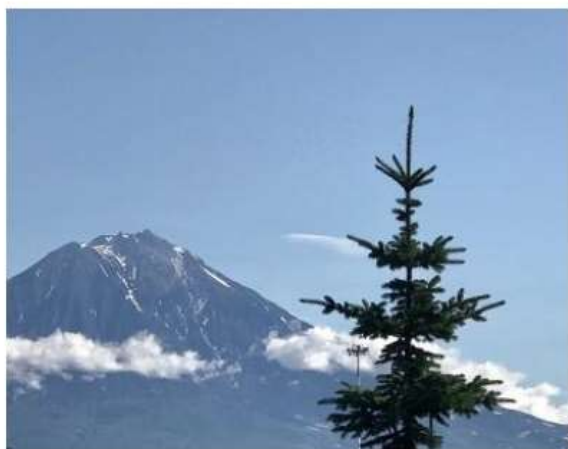
飯田 進さんへのお返事です。
あれはホテルの温泉プールです。
これがツアーの途中で入った自然の中の温泉です。



帰国 塩崎将美 8月1日

無事帰国しました。

飯田様コリャク山の写真です。



飯田 進

無事ご帰国おめでとうございます。カムチャツカの富士山、懐かしい写真です。

カムチャッカも随分観光化されてるようですね。



カムチャッカ3 塩崎将美 8月2日

米山さんに頂いた写真です。熊と敦盛草と地リスです。許可頂いたので投稿しました。

先輩がホームページに今回の旅の写真を掲載されたら又お知らせします。楽しみにお待ちください。



カムチャツカ 熊 塩崎将美 8月16日

クリル湖への熊と火口と温泉ツアーは US \$ 610、高いが十分楽しめました。ボートで 10 分湖岸に熊が現れる、我々との距離は 10m ぐらいか。熊は森から出て水の中へ、お腹が水に浸かる前に立ち止まり動かない、頭だけ少し動いている、水の中の魚をじっと観察しているようです。突然ジャンプ。何度も失敗するも頑張ってジャンプ、ついに魚を捕らえ頭を水中へガブリ。一部の熊たちは最初のジャンプの後そのまま続けて何度もジャンプ、しかし成功しない、おそらく狩りに慣れない若い熊でしょうか。周りの鳥達は熊のおこぼれを狙って集まってきました。



(無題) 塩崎将美 8月16日

米山さんがホームページ(米山悦郎写真展)にカムチャッカ 2017 をUPされました。綺麗な花の写真が多数有ります。

<https://www.yoneyama3714.jp/>

さすがプロ

カムチャッカの花の写真を順番に公開しようと思ってましたがやる気を無くしました。同じ所で同じ時に写して何故こんなに違うのでしょうか。熊もサケを口に銜えたのが有ります。

カムチャツカ クリル湖 塩崎将美 8月17日

クリル湖はカムチャッカ南部の湖です。カムチャッカの中でも熊の数が多し事で知られています。写真家星野道夫が熊に襲われ亡くなったのがこの湖です。彼の最後の様子を検索すると取材テーマが”熊と鮭”で小屋が有ったり鮭の観察小屋も有る場所でテントを張っていて襲われたとあります。我々が訪ねた所かもしれません。

ボートを降りたツアーのメンバーは銃を持ったお兄さんの先導で電気柵を外して湖から流れ出す川沿いを歩きました。我々の前方を子熊が横切り緊張します。橋が現れガイドの説明では川をせき止め三か所だけ開けてありそこで鮭の遡上数を数えてるとの事でした。橋を眺めていると川下から子熊を連れた母熊が現れ我々の方に近づいてきます。ガイドの下がっての声に1~2歩下がるも僅か 2~3m先を横切って川上へ歩いていきます。緊張し興奮しカメラでパシャリパシャリ。

帰りに火山の火口に降りる予定でしたが雲が低い為中止、残念。湖畔の草原に降り昼食、この湖(池?) 7月31日に投稿した先輩が泳がれてる写真)が温泉でした。



カムチャッカ バス 塩崎将美 8月19日

我々を山の中へ運んでくれるバス。軍用車両を改造したものとの事、もとは軍用トラックか？6輪駆動です。こんな道なき河原を平気で走ります、少々石を乗り越え急傾斜もグイグイ登り雪の上も走る優れもの

のです。空気圧はかなり低め。ゆっくり走るせいかわかれはそんなに激しく感じません。舗装された道路では結構なスピードで走りました。

埋まってる車両は我々の到着前後に降った雨でこの川が濁流になり、客を下ろして帰る時立ち往生し運転手は逃げ出し無事だったそうです。帰る時には掘り出していて我々の車で引っ張り上げようとしたがビクともせず失敗。



カムチャッカの美形ガイド 越田和男

カムチャッカの話と写真の追加。スルーガイドとして一週間付き合ってくれたのは、カムチャッカ生まれの日本語通訳嬢、20代後半で、まだスリム、たまには東京でモデルのアルバイトもするとか。日本語は完璧ではないが誰も文句は言わない。バブさんの絶好の被写体になったのは言うまでもない。

写真数葉を谷君のところへ送ってますので、その内にアルバムにアップしてくれることになってます。ご期待あれ。

カムチャッカの美形日本語ガイド 谷 勇輝

大変遅くなりました。

越田さんからアルバム掲載用に写真受け取りましたが、HP不具合のため、掲示板へアップさせていただきます。タイトル「カムチャッカの美形日本語ガイド」

撮影者: 米山悦郎氏



* * * * *

パタゴニア 塩崎将美 1月21日

安井さんとパタゴニアに来てます。今日はアコンカグアを見に行きましたが残念ながらガスがかかって頂上見えませんでした。天気は晴天で綺麗な青空、周りの山々を楽しみました。





Re: パタゴニア 山本恵昭

塩崎様

憧れの地、パタゴニア。いいなあ！雪見会でお話を聞かせてください。

Re: パタゴニア 越田和男

遥かなりパタゴニア。パイネ、フィッツロイ、セロ・トルレ、などなど山も良し。大関が元気だった。ワイン良し、食べ物よし、ウニの缶詰めスーパーで安く買えるはず。カラファテを食った人はまたパタゴニアに帰ってくるという。ジャムを食ったけど再訪果たせず。大いに楽しんで下さい。土産も期待。

パタゴニア2 塩崎将美 1月22日

今日はサイクリストの憧れのアウストラル街道をひたすら走りヘネラルカレーラ湖のマーブルカテドラルを見に行きました。景色は良いが長い長い1日でした。



パタゴニア3 塩崎将美 1月24日

国道40号をひたすら680km南下エルチャルテンにきました。感激です、町の手前で見えました、フィッツロイとセロトーレ。



パタゴニア4 塩崎将美 1月25日

今日は5時前から朝焼けを見に小高い丘へ行き朝食後フィッツロイ展望台までハイキングしました。一昨日まで一週間山は全然見えなかったと言う事ですが我々の到着に合わせてこの天気、我々の日頃の行いが如何に良いかを証明する証しです。



のハイキングをしました。角度を変えて近づいたトーレは圧倒的な壁でした。

ガイドの可愛い女性と拙い英語で話すと何と彼女はフィッツロイとセロトーレ両方とも登ってました。フィッツロイは初登攀のフランスルートで3日、セロトーレは東壁を4日かかりとの事、もう1人の26歳の男のガイドは1ヶ月ぐらい前にトライしたが寒さで敗退したと悔しそうに話してました。このか細い女の子がああ壁を登ったとは驚きです。

越田様

カラファテの実生食しました、これでこの素晴らしいパタゴニアへの再訪問間違いなしです。



パタゴニア5 塩崎将美 1月26日

今日も良い天気です。セロトーレ展望台まで4時間



山本恵昭

セロトーレのトンがり、いっさい無駄のない
姿に痺れますね。

パタゴニア 塩崎将美 1月30日

無事成田に帰ってきました。ANAのラウンジで伊丹
行き待ってます。ウォッシュレットで帰国を実感してま
す。電波悪く UP 出来なかった写真は神戸に帰って
から投稿します。

お疲れ様です 平井幹男

長いフライトお疲れ様でした。

雪見会でたつぷりと土産話お聞かせください。

楽しみにしております。

パタゴニア6 塩崎将美 1月31日

ペリトモレノ氷河とグレイ氷河



パタゴニア7 塩崎将美 1月31日

パイネ





パタゴニア 8 塩崎将美 1月31日

トーレスデルパイネ、パイネの角とパイネグランデ峰。

憧れのパタゴニア、最高の旅が出来ました。フィッツロイは山が見えない日が一週間続き帰った後の天気予報はずっと雨、我々が居た間だけ天気、パイネもガスは掛るが肝心の所では晴れ、何度も来ている添乗員が一度も山を見ずに帰る人も有るのに何とついでるのと驚いてました。

ただ南米は遠いです、体力のある間に行くべきです。個人旅行も可能です、長距離バスが発達してます、バックパッカーもよく見ました。



編集後記

今年も山嶽寮を無事お届けする事が出来ます。

編集長を引き受けて初めて何名かの方に何か書いてください、〇〇について書いてくださいとお願いしたのですが何れも空振り、私の力のなさを感じました。

掲示板に「原稿募集中只今0件」と書き込んだところ続々と原稿が届きました。

寄稿してくださった皆様ありがとうございました。

断りの理由は歳いって書く気力がない、山に行っていないからと言うことでした。そんなことを言ったら会員のほとんどが60歳以上でほとんどの人が山と縁のない生活しているこの会はなんやねんと言う事になってしまいます。今の甲南山岳会は何年も現役部員いませんしおそらく今後も現役は入ってこないでしょう、若い時に一緒に山に登った仲間の仲良しクラブやと私は思ってます。仲良しクラブの会報です山以外の原稿大歓迎です。

皆様来年の山嶽寮の原稿お待ちしております。

塩崎將美 記

原稿宛先

塩崎將美

電話/FAX

Eメール

山嶽寮 第73号

甲南山岳会

神戸市東灘区岡本8-9-1 甲南大学内

2018年(平成30年)10月

編集人 塩崎將美

印刷 (株) 春日